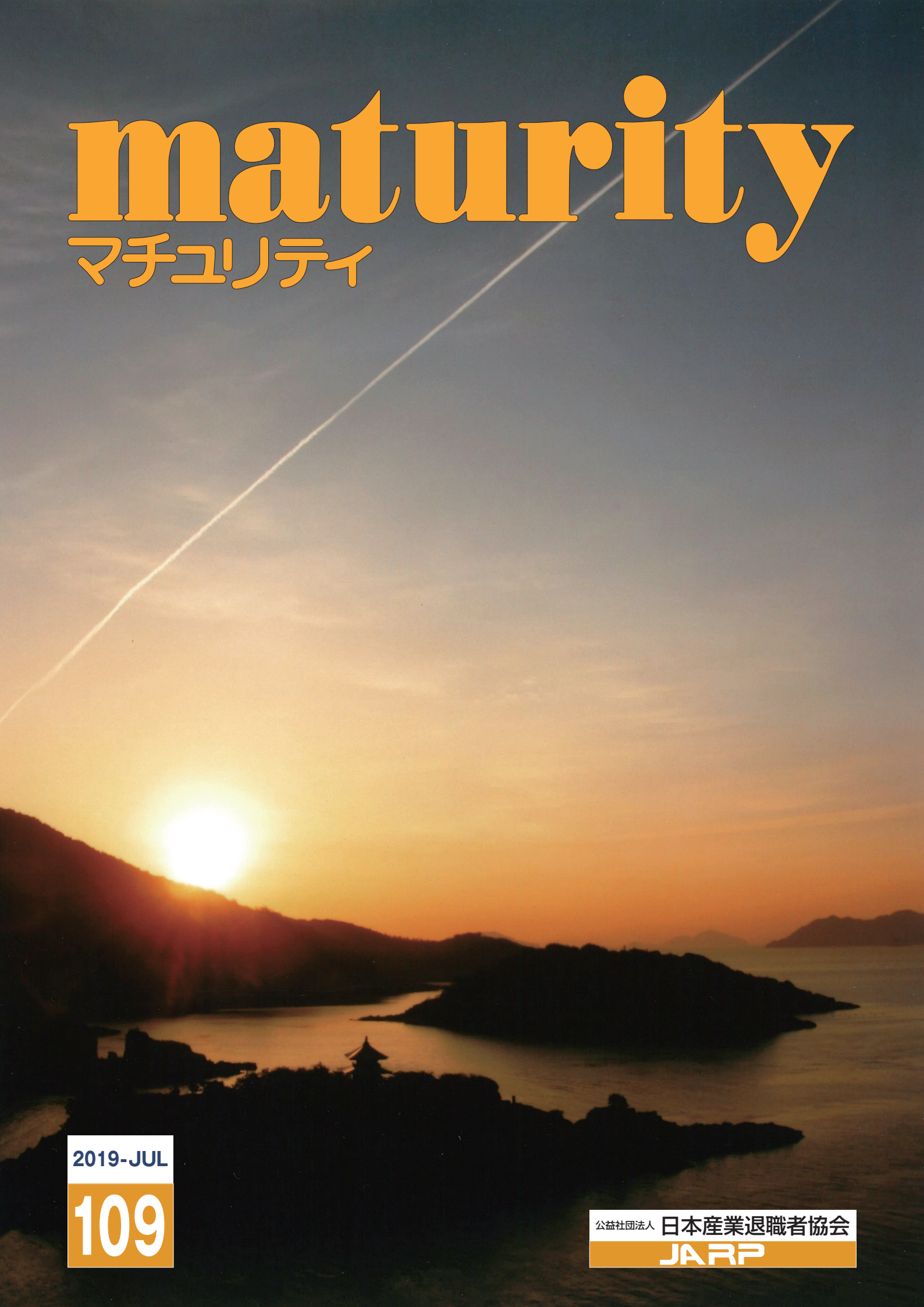
maturity
マチュリティ



2019-JUL
109

公益社団法人 日本産業退職者協会
JARP

maturity

“人格、才能の豊かで円熟”の意味

“第二の人生のために”

無為の人生は自らその老いを早め、
孤独の余生は座して終わりを待つに等しい。
進んで生きがいを求め、友と苦楽を共にし、
天寿の日々を悔いなく生きたい。

高齢化が急速に進むなかで、我々は長年培った能力と、豊かな経験を生かして、第二の人生を生きがいあるものとし、社会の活性化に寄与しよう。
企業・団体の理解と協力を得て、高齢者による産業界の新しいコミュニティを創造し、21 世紀における活力あるマチュリティ社会を目指そう。

お願い

私たちは東日本大震災、熊本地震の被災者の方々に、支援を行ってまいりましたが、平成 30 年に発生した西日本集中豪雨並びに北海道胆振東部地震の被災者の方々も含めて、引続き募金活動を継続してまいりますので、どうかご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

郵便為替	口座番号	００１３０－３－１３９３５３
加入者	公益社団法人	日本産業退職者協会

恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います。
払込取扱票の通信欄に、東日本大震災宛、熊本地震宛、西日本集中豪雨宛、ないし、北海道胆振東部地震宛、とご記入ください。

公益社団法人 日本産業退職者協会（JARP）
理事長　湯藤　哲

目　次 maturity 2019年／第109号

特　　集	企業で働くひとを支える 福利厚生サービス ……	可児　俊信	2
ふれあいトークサロン	第36回　古事記のお話いいとこどり ……	小名木 善行	8
	第37回　海の古代史 ……	髙　川　　博	14
社員総会報告	2019年度社員総会報告 ……	事　務　局	18
社会貢献活動	ダウン症候群児等の療育作業訓練施設 『虹の子作業所の現況』 ……	新　島　　健	22
海外貢献活動 《第3回》	海外に拡がる会員活動 ……	吉 川 敏 孝	23
チャリティコンサート	《第15回》チャリティコンサート ～世界の名曲を集めて～ ……	チャリティコンサート 実行委員会	25
マチュリティ談話室	「ガンバレ」の意味は ……	市　村　　章	28
	国際結婚は日本を救う ……	小高　宣子	29
	ゆるり　ゆらりと ……	中村　信子	29
	我が健康管理 ……	細戸　陽太	30
	留学生の失踪問題に思う ……	宮脇　章郎	31
ひ と こ と	「元号」 ……		32
	石井　憲／薄井　繁／大里璋子／大友　彰／小川克己 岸　伸和／熊田昌秀／児玉光雄／外前田　恵 津村明甫／橋本　保／蓮井　暁／平石純一／松﨑敏夫		
イベントだより	……		34
	囲碁会／江戸東京歴史散歩の会／園芸クラブ／鎌倉探訪 カラオケ会Ⅰ／四季の会／詩吟会／自然を楽しむ会 水墨画教室／竹とんぼ同好会／男声合唱クラブ 築地海鮮丼川柳会／デジカメクラブ／歴史を考える会		
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会 ……		41
投　　稿	夏に想う～飛ばせなかった昭和の竹とんぼ～	末松　孝一	46
広島支部だより	広島支部長のバトンを受けて ……	谷　口　　博	47
役員名簿／編集後記 ……			48
法人・団体　会員名簿			

表紙写真　「朝の鞆の浦」（広島県庄原市比和町にて）岩崎迪子
裏表紙　　関根貞夫／細田將孜／紙田一宏（広島）／清水賢二（広島）

本号では、当協会の法人会員である株式会社ベネフィット・ワン社の福利厚生サービスについて、寄稿いただきました。

企業で働くひとを支える福利厚生サービス

千葉商科大学会計大学院教授
株式会社ベネフィット・ワン　ヒューマンキャピタル研究所所長　可児　俊信

●はじめに

今回は企業で働く従業員とその家族を支える、福利厚生とそのアウトソーシングサービス（外注）についてお話をさせて頂きます。

今、福利厚生はいくつかの理由で注目されています。まずは、新卒および中途での人材採用のためです。福利厚生を充実して待遇・処遇を改善したり、就職予定者が望む福利厚生制度を整備したりすることで、人材確保を容易にします。

また、「健康経営」、働き方改革、同一労働同一賃金、ダイバーシティ経営（多様性経営）、エンゲージメント等、多くの人事に係わる経営のキーワードがあります。これらを実現するために、福利厚生制度が大いに活用できるためです。例えば、ダイバーシティ経営（多種性経営）を目指し、多様な人材に満足して働いてもらうためには、給与を高くするだけでは不十分です。それぞれが働きやすい環境をつくるためには、福利厚生制度の再構築が不可欠なのです。

貴協会には弊社の代理店としてもご活動頂いておりますので、この機会に福利厚生アウトソーシングサービスについて知って頂き、今後のご活動に活用頂ければと思います。

●日本の福利厚生の成り立ち

福利厚生は明治時代以降、時代とともに変化してきました。日本の福利厚生の成り立ちを知ることで、事業主にとっての福利厚生の必要性や本来的存在意義が明らかになりますので、成り立ちについてご紹介させて頂きます。

日本の福利厚生は、１８７２年に操業を開始した富岡製糸場に遡ることができます【図表１】。殖産興業政策の下、全国から女工を募集しスキルを習得させ、製糸業を全国に展開し、輸出産業に育てることが目的でした。全国から募集した彼女たちが暮らす宿舎は、今でいう寮・社宅制度の原型といえます。同じく食事をとる食堂や女工達の傷病に備える診療所等も事業所内に併設されました。これらに加え、学校や裁縫等の修得の場もありました。宿舎、食堂、診療所、学校等は、労働力を確保し維持するのに欠かせない設備といえます。労働力が生産に不可欠である以上、こうした福利厚生施設も生産設備と同等に重要でした。

日本の産業革命期である１９０５年に経営が本格化した日立鉱山においても、福利厚生施設・制度は生産活動を維持するために必要なものとして生産設備と同等の重要性を持っていました。山奥の鉱山が事業場であるため、鉱夫長屋が社宅として設置されました。それは麓からは通えないためと、全国から鉱夫を

集めたためです。また麓まで買い出しに行く必要がないよう、食品や生活用品の購買所もあり、事業主の負担により市価よりも安く購入することができました。これは、優秀な鉱夫は他の鉱山との人材の争奪が伴うため、人材が定着するよう、他の鉱山に見劣りしない生活環境を提供する必要があったからです。

また、鉱夫に娯楽を与え、家族と寛ぐ場として、「共楽館」と呼ばれる劇場も建設されました。その他に、多くの鉱山では事業主が神社の祭りのスポンサーとなってイベントを提供したり、学校や幼稚園を作ったりすることも欠かせませんでした。

同じく1905年に鐘淵紡績が鐘紡共済組合を設立し、従業員の傷病、死亡、退職において給付金を支給する相互扶助の制度を始めました。これは、社会保険が創設される以前において、職域で働く従業員に定着をもたらす大きな役割を果たしました。

これらの施設・制度は、今に続く社宅・寮、社員食堂、診療施設、購買所、社員クラブ、保養所、社有体育館・グラウンド、共済会・職員互助会の原型といえます。

1990年から始まったバブル崩壊は、97年に一気に深刻化しました。企業業績の悪化とともに、人事運用は「年功序列」から成果主義に変わり、誰もが安定した会社生活を送れる時代は終わりました。同時にリストラ（解雇、希望退職）が本格化し、大企業でも「終身雇用」を維持することは困難になりました。景気低迷で転職先も少なくなったことから、自主的な転職も減少したため、福利厚生を充実しなくとも雇用は確保できました。さらに企業業績の悪化に対応して社有資産を売却する必要も生じ、保養所の売却も進みました。これにより、社宅や保養所に投資し、従業員やその家族の満足度を高め、長期勤続を促す「施設投資型福利厚生」は見直されました。

バブル崩壊とともに地価も下落して、それに応じて福利厚生費のうちの住宅関連費用も減少して行きました。福利厚生相当額を手当化する動きや、退職金を廃止して手当として上乗せする動きも見られました。

図表１　富岡製糸場の寄宿舎

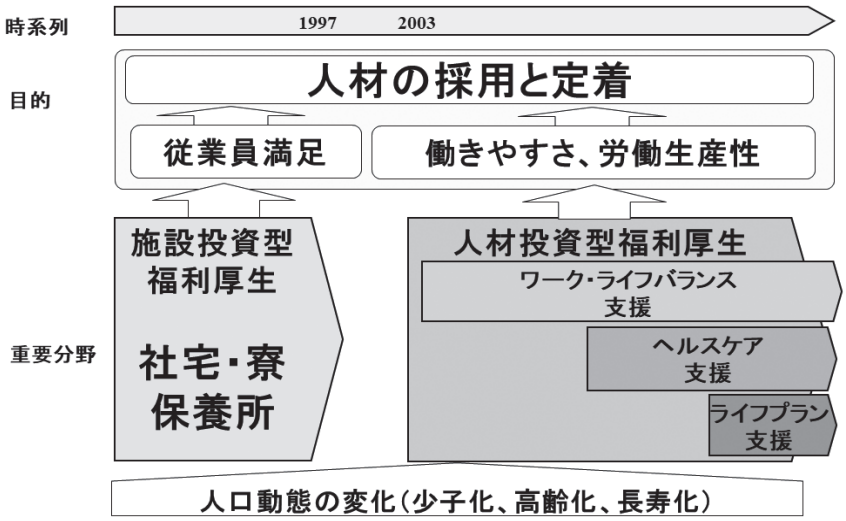
■**可児 俊信**（かに としのぶ）

1996年より福利厚生・企業年金の啓発・普及・調査および企業・官公庁の福利厚生のコンサルティングにかかわる。
年間延べ500団体の人事部門を訪れ、現状把握と事例収集に努め、福利厚生の見直し提案を行う。
著書、寄稿、講演多数。

こうした福利厚生費の削減対応策として、福利厚生アウトソーシングサービスやカフェテリアプラン「福利厚生アウトソーシング」がこの頃登場いたしました。

２００５年の景気回復をきっかけに、福利厚生は、従来の「施設投資型福利厚生」から「従業員投資型福利厚生」に切り替わりました【図表２】。それは同時に「所有」から「利用」への切り替えにもつながりました。新しい福利厚生分野が重視されることになり、事業主はその分野を自社の資源として所有する形で整備するのではなく、外部の資源を利用する形で、整備の時間とマンパワーを省いてきました。これが福利厚生アウトソーシングです。

図表２　福利厚生の目的と分野の変化



出所：可児俊信「新しい！ 日本の福利厚生」労務研究所

アウトソーシングは、１９９０年代後半から米国から導入され、日本で普及しました。バブル崩壊による企業業績の悪化に伴う人事・総務のコストダウンの一環です。

業務の選択と集中を行い、中核となるコア業務は自社の資源、非コア業務は外部の資源に委託しようとする経営手法です。人事・総務部門においても給与計算、経理業務、社宅の管理や福利厚生の提供まで、外部委託する傾向が強まりました。

●アウトソーシングの三つのメリット

アウトソーシングは、「外部化」「大規模化」「専門化」から来る委託企業やその従業員にとってのメリットを生みます【図表３】。

ア　外部化

自社内で福利厚生制度とその運用を構築するのではなく外部のサービスを利用するため、福利厚生を短期間のうちに充実することができます。また、福利厚生資源が社外にあるため、自社内での福利厚生事務を削減でき、担当者の負担が軽減されます。

福利厚生制度を運営するためのシステムの開発・維持・改修といった固定的な費用も不要となります。つまり、福利厚生費を削減できるだけでなく変動費化できます。

イ　大規模化

アウトソーサーは、多くの委託元企業から福利厚生運営を受託します。委託元の従業員が多く利用すればする程、スケールメリットが働きます。

サービスを提供しているプロバイダーに対する価格交渉力が強まり、サービス仕入れ料金を引き下げることができます。それによって委託元の従業員の利用料金も下がり、さらに利用が増えるという好循環が生まれます。プロバイダーも、利用実績の多いアウトソーサーへのサービス提供を集中することで、アウトソーサーは、よりサービス水準の高いプロバイダーとサービス提携が可能となり、これが更なる利用の増加をもたらします。削減

図表３　福利厚生アウトソーシングのメリット

外部化	・短期間での福利厚生充実 ・福利厚生運営コスト・事務負担の軽減 ・福利厚生担当者の事務引継ぎ不要 ・システムの開発・メンテナンス不要
大規模化	・福利厚生メニューの低価格化 ・福利厚生メニューの質の向上 ・従業員満足度の最大化
専門化	・福利厚生の制度企画力の向上 ・従業員に対する福利厚生レベルの向上

出所：可児俊信「新しい！ 日本の福利厚生」労務研究所

ウトソーシングニーズを引き出し、それがさらに専門化を推進していきます。

●福利厚生アウトソーシング

（1）福利厚生アウトソーシングサービス契約

福利厚生アウトソーシングサービスは、明確な定義はないものの以下の要件を満たします。

ア　目的

事業主に雇用されている従業員に対して、福利厚生を目的に提供されます。よって、原則として従業員の全員に加入資格が付与されます。なお、全員加入とせず、正社員、契約社員、パート・アルバイトといった雇用区分によって、加入資格を区分することもあります。区分するにあたっては、均等待遇・均衡待遇の法令を考慮しなければなりません。

加入した個々の従業員を個人会員（メンバー、構成員とも呼称）と呼びます。個人会員には、それぞれにＩＤが付与され、ＩＤを記した会員証が配付され、個人会員はアウトソーサーからＩＤで認識され、サービスを利用できます。

イ　法人契約

事業主が、福利厚生アウトソーサーと法人契約を締結します。事業主が法人会員となることで、その従業員である個人会員は福利厚生パッケージを利用する権利を得ます。

利用契約の締結を入会と呼びます。これは、複数の法人会員が構成する会員組織とみなしているためです。

なお、法人会員には事業主だけでなく、共済会・職員互助会・互助組合、保険、労働組合、年金基金等もなることができます。その構成員に対してこのサービスを提供することができます。

ウ　法人会員が負担する会費

利用契約において、法人会員が負担する入会維持費用を会費といいます。会費は月額制です。月単位での個人会員数の変動を会費額に反映させているためです。月額会費額は個人会員数に会費単価を乗じて算定します。法人会員は、月会費以外に入会時に入会金も負担します。これは委託金や預り金ではなく、初期の個人会員を設定したり、契約内容をシステム設定したりする費用に充当されますので、退会時に返金されるものではありません。

ウ　専門化

福利厚生の受託実績が蓄積されるにつれ、アウトソーサーは福利厚生運営の専門性を高めることができます。これが、委託元に対する福利厚生業務の一層の標準化やさらなるアされたコストの一部は、サービス水準の向上に向けられます。

（2）福利厚生アウトソーシングサービスの仕組み

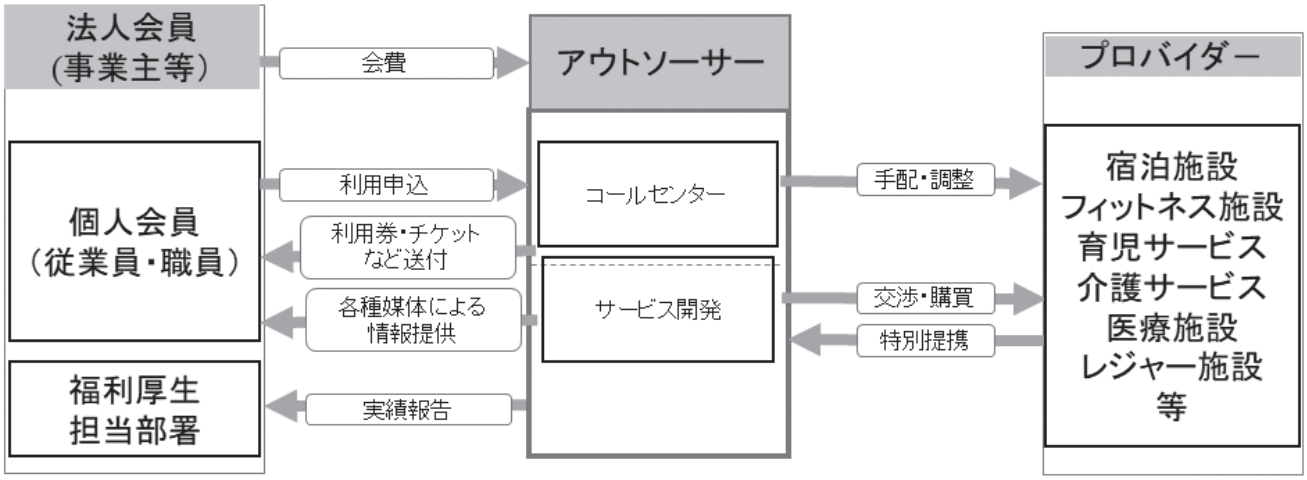
福利厚生アウトソーシングサービスの仕組みは、【図表4】に示すとおりです。

契約前は、事業主（福利厚生担当部署）が福利厚生制度の新設・改廃、利用できる施設や提供業者の提携・拡充を行います。他方、従業員に対して、冊子やウェブサイトを通じて福利厚生制度の告知を行い、利用を促進します。従業員から利用申込があれば、施設やサービス提供業者に対して利用予約や利用手続きを行い仲介機能も果たします。このように、担当部署は、①福利厚生制度の開発・拡充、②福利厚生制度の告知、③利用申込の取次ぎ、の三つを行っていました。

契約後は、サービス利用申込の取次ぎ、福利厚生サービスの告知、福利厚生サービスの開発・拡充等の三つの役割を外部委託できます。

提供する福利厚生サービス数は、合計して数十万～百万以上に及びます。このサービスが普及し始めた90年代の後半から2000年代の前半は、サービス分野は宿泊分野が主体でした。企業・健康保険組合がコストダウンを目的に、保有する保養所の閉鎖や売却を行い、その代替として導入されたためです。

図表4　福利厚生アウトソーシングの仕組み



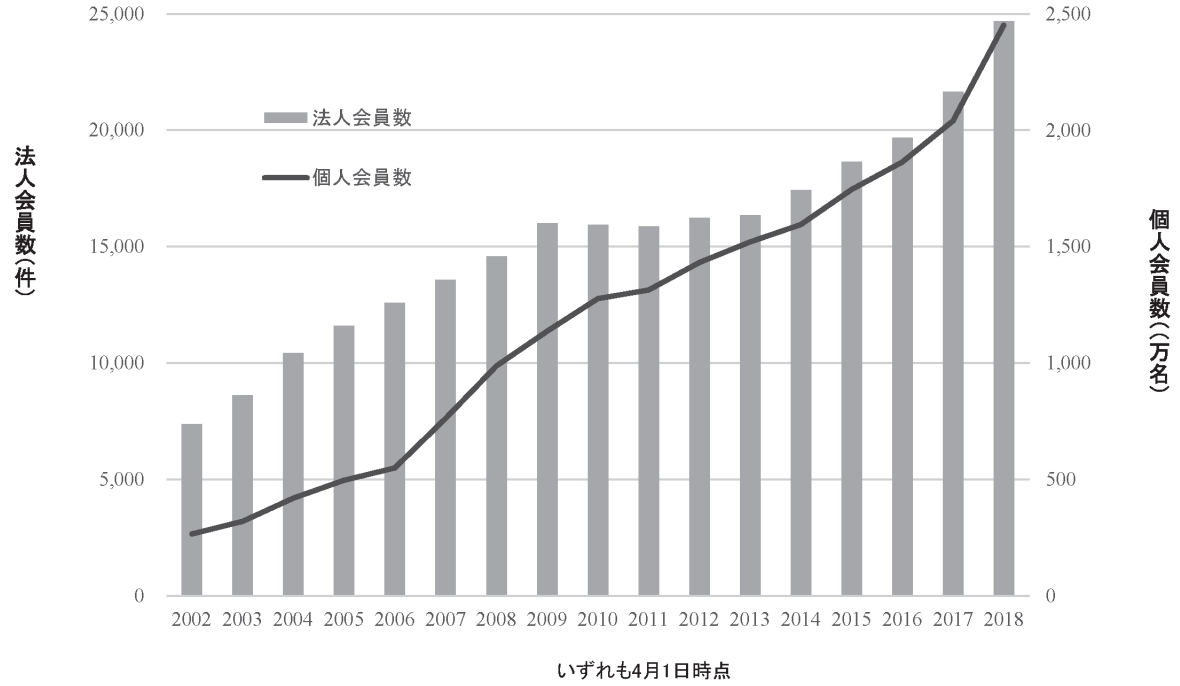
出所：可児俊信「新しい！ 日本の福利厚生」労務研究所

健康保険組合の保養所は、一箇所あたりの年間支出超過額が当時で平均2903万円（中央社会保険医療協議会「医療経済実態調査」（08年）です。一方、事業主が負担する会費は、採用するコースによっても異なりますが、個人会員一人あたり年間で4000円前後です。

例えば、五千名の被保険者を抱える健康保険組合であれば、年間会費総額は2000万円に止まり、900万円のコストダウンとなります。また、保養所は箱根・軽井沢・伊豆等の関東近郊に立地していることが多く、地方勤務者にとって利用しづらく不公平と映りました。サービスの導入によって、コストダウンと福利厚生の格差是正が同時に実現できます。

03年頃から、「施設投資型福利厚生」から「従業員投資型福利厚生」に変わり始め、ワーク・ライフバランス支援、ヘルスケア支援、ライフプラン支援といった福利厚生分野が重視され始め、このサービスの導入によってそれらの分野を充実させるようになりました。よって、「育児サービス、介護サービス、人間ドック等の疾病予防サービス、フィットネスクラブ等の健康増進サービス、自己啓発、レジャー、日用品購買」までサービス分野が拡大しています。

図表５　福利厚生アウトソーシングの普及の推移



出所：可児俊信「新しい！ 日本の福利厚生」労務研究所

●これからの福利厚生

これからの福利厚生においては、「人生１００年時代」といわれ始め、老後がますます長くなることから従業員へのライフプラン支援の推進や、自助努力の機会の提供、キャリアプラン支援等様々な支援が必要とされる時代になっていくことが考えられます。

また福利厚生アウトソーサーは、これまで大企業や官公庁にサービスを提供してきましたが、今後は中堅・中小企業へも福利厚生サービスを拡大していくことになります。【図表５】に示す福利厚生アウトソーシングの普及の推移のとおり、法人会員数、個人会員数ともに年々会員数は右肩上がりの状況です。

弊社ベネフィット・ワンでは、福利厚生アウトソーシングサービス「ベネフィット・ステーション」を中心に、人事・総務部門にかかわるサービスを企業へ提供しています。働き方改革、同一労働同一賃金、人材確保といった背景から、規模問わず多くの企業から福利厚生パッケージの導入検討を頂いております。

貴協会はベネフィット・ワンの代理店でもありますので、「低価格で手間のかからない福利厚生を導入したい」「採用や人材定着に課題がある」というような企業や担当者がお近くにいらっしゃれば、是非ご紹介を頂けますと幸いです。また貴協会における皆様は、「ベネフィット・ステーション」への加入資格も有しております。全国１４０万以上のサービスを優待価格で利用可能ですので、是非お試しください。

★お得なサービスはこちらから確認：
http://www.benefit-one.co.jp
スマートフォンからもご覧いただけます。

当協会は同社の代理店となっており、多くの皆さまに個人会員としてご加入いただいております。今後のクオリティ・オブ・ライフ充実の一助として、未加入の皆さまにもご検討いただければ幸甚です。サービスの内容・会費などの詳細につきましては、事務局にお問い合わせください。

ふれあいトークサロン

第36回　平成31年1月30日（水）（参加者35名）■秋葉原ビジネスセンター「ＡＰ秋葉原」において開催
第37回　平成31年3月29日（金）（参加者24名）■秋葉原ビジネスセンター「ＡＰ秋葉原」において開催

〈第36回〉古事記のお話いいとこどり

国史研究家　小名木 善行

一、復奏

復奏は古事記に出てくる言葉で、「かへりごと」と読みます。現代の言葉で表すと「報告」の意味に近いですが、もうすこし深い意味があります。皆さんが現役だったころ、勤務態度も良く業績の貢献度も凄く高い営業部長が何故か中々出世しないということはなかったでしょうか？　結構有りがちな話ですが、実は古事記には、そんな風にならないようにするための教訓が書かれています。それが「復奏」のお話です。

その昔、大国主神（おほくにぬしのかみ）は、苦労してやっと大いなる国（中つ国）の主（ぬし）となりましたが、高天原（タカマガハラ）の天照大御神（あまてらすおほみかみ）が、「その国は我が御子（みこ）の知らす国ぞ」とお示しをなされ、八百万（やほよろず）の神々が協議をして天菩比神（あめのほひのかみ）が中つ国に遣わされました。ところが古事記は「天菩比神は大国主御神に媚びて三年経（た）っても復奏（かへりごと）が無かった」と書いています。（図1）。

次に天若日子（あめのわかひこ）が派遣されます。天若日子は今でいうイケメンだったようです。大国主神にもたいへんに気に入られ、大国主神の娘の下照比売（したてるひめ）と結婚しています。高天原と中つ国を血縁関係にしようと思われてのことであったのかもしれません。ところがこの天若日子も、高天原から疑われたのみならず、弓で射られて死んでしまうのです。

古事記の別の箇所には、当時高天原と中つ国が相互に使者が行き来して交流があったことが書かれています。ということは、天菩日神にしても、天若日子にしても、高天原の神々への報告はしていたことでしょう。天若日子に至っては結婚までしているわけですから、そのときには高天原からも祝の使者がやってきたに違いありません。いまで言ったら、メールや電話で報告はしていたわけです。ところが疑われてしまうのです。

ちゃんと状況報告をしているのに疑われてし

図1

復奏

遣天菩比神者（あめのほのひのかみをつかはすも）
乃媚附大国主神（おほくにぬしのかみにこび）
至于三年（みとせをへても）不復奏（かへりごとなし）

まう。それは何故でしょうか。古事記はそのことについて、後世の人たちにもわかるように、ちゃんと説明をしています。まずはじめに戻って読み返してみると、八百万の神々が集まって「中つ国にどの神を遣わすか」と会議をしています。会議に参加し、その意思決定に参加したということは、そのとき参加した全員が、その結果について応分の責任を負担していることになります。ところが報告というのは、通常、直属の上司にのみ行われます。では、自分を選任してくれた他の神々への報告はどうなっていたのでしょうか。

「あいつは、ちゃんとやっているのだろうか。」

「どうなんでしょうね。何の連絡もありませんね。直属の上司には報告しているのかもしれません……」

仕事というのは、すればするほど必ず問題が発生するものです。問題が起きないということは何もしていないということです。問題は必ず起きるのです。そのとき、状況を聴いていなかったけれど責任だけ負っている他の神々はどのように思うでしょうか。

「何だ、アイツ。何も言ってこないのみならず、我々が選任してやったのにそんなことになっているのか！　まったく困ったものだ……」

そこで古事記は、最低でも月に一度は直属の上司だけでなく、自分を選任してくれた他の上司たちもちゃんと集まっていただいて、顔を合わせて定期の報告をしなさいと教えているのです。これが「復奏（かへりごと）」です。報告と復奏の違いは、報告が直属上司に対してのみ行われるのに対し、復奏は関係者全員が集まった席で、オフィシャルな定期報告会を行うことを意味するという違いがあります。なんと意外なことに、古事記は現代の社会人の教訓にもなるような話が物語として書かれています。

■**小名木 善行**（おなぎ ぜんこう）

1956年（昭和31）生まれ。
国史研究家。上場信販会社を経て現在は執筆活動を中心に、私塾である「倭塾」、「百人一首塾」を運営、またインターネット上でブログ「ねずさんのひとりごと」を毎日配信。千葉県在住。

著書：シリーズ『ねずさんの昔も今もすごいぞ日本人！』一〜三巻、『ねずさんの日本の心で読み解く百人一首』（日本図書館協会推薦）、シリーズ『ねずさんと語る古事記』壱〜参、『誰も言わない ねずさんの世界』など、多数。

二、古事記が書かれた時代

古事記は一般に「古代の神々（天皇）のことを書いた歴史書」と言われていますが、ほんとうにそうでしょうか。実は古事記には「序文」があり、そこに古事記が書かれた目的が明確に記されています（図2）。それは「我が国を立て直すために、我が国のお国柄を明確にするためにこの書の編纂が天武天皇によって命じられた」というものです。

図2

ここにおひては　すめらのみこと　のりたまひしく
於是天皇詔之
もろいえへに　もたらされたる
「朕聞、諸家之所賚
すめらのひつき　およびさきつよの　ことのはは
帝紀及本辞
すでにまことに　たがひては
既違正実
おほくいつはり　くわへたり
多加虚偽
いまのとき　そのあやまりを　あらためずなば
当今之時不改其失
いくとせも　へずにそのむね　ほろびなむ
未経幾年其旨欲滅
すなはちそれは　みかどのたてぬき
斯乃　邦家之経緯
おふけのおほき　もとひなり
王化之鴻基焉
かれおもひみて　すめらのひつき　えらびしるして
故惟、撰録帝紀
ふることを　たずねきはめて
討覈旧辞、削偽定実
のちのよに　ながすとおもふ
欲流後葉」

天武天皇が天武十年（681年）川嶋皇子、広瀬王などの皇族、貴族合わせて１２名を前に発せられた詔。ここから３１年の歳月をかけて古事記は編纂され、７１２年、第４３代元明天皇の命によって上奏された。

ひとくちに神話といいますが、日本はご存じの通り、とても古い国です。旧石器時代（自然石をそのまま使っていた時代）の遺跡もありますし、新石器時代（石を砕いたり磨いたりして道具として使った時代）もあります。とりわけ磨製石器の時代は、世界で最も古くて、最初に発見されたのが昭和二十二年の群馬県赤城山麓の３万年前の磨製石器、その後全国百三十二箇所から四百点あまりの磨製石器が発見されています。いずれも世界最古のものです。なぜここで磨製石器のことを持ち出したかと言うと、欧米の学者の間では、磨製石器と神話が生まれた時代は丁度重なるとされているからです。なぜかというと磨製石器は、ある程度の人数が集まった集団の中で作られたと考えられるからです。一定以上の集団になると獲物を捕る人、それを捌く人、道具を作る人など分業制が進みます。すると互いの意思伝達するために言葉も発達します。更に集団が大きくなると、その集団は、なぜ自分たちが一緒に生活し助け合っているのかという、共同体の持つ意味を、神話という形で遺そうとするからなのだそうです。それが西洋ではおよそ八千年前、日本では三万年前だというわけです。

日本は歴史があまりにも古いことから、時代が進むにつれて全国に豪族が誕生しました。おそらくもともとは全員が親族であったのだろうと言われていますが、長い間、自分たちだけのコミュニティを続けていると、もともとは同じ神話を共有していたものが、長い歳月の間に共同体ごとに……つまり豪族ごとに神話の内容が変化します。要するにそれぞれの豪族たちが、それぞれに自分たちに都合の良いように、神話が改変されていくわけです。このことを古事記序文は、「既違正実、多加虚偽（すでにまことにたがいては、おほくいつはりくわへたり）」と書いています。

更に時を経て天智天皇の時代、西暦６６３年に朝鮮半島で新羅（シラギ）が百済（クダラ）を滅ぼしました。日本は百済を助けるために大軍を率いて半島に渡るのですが（白村江の戦い）、三年半経ったとき、唐と新羅の連合軍に大敗して、半島の権益をすべて放棄しました。当時の日本は、各地域の豪族ごとに言葉は方言が異なるし、使う文字もバラバラです。しかも唐と新羅は、海を渡って日本に攻め込んでくる予定であるという知らせが日本に舞い込みます。これに立ち向かうには、我が国を豪族たちのゆるやかな集合体という形から、中央集権型の統一国家にしていく他はない。これが古事記の序文にある「当今之時不改其失　未経幾年其旨欲滅（いまのとき　そのあやまりを　あらためずなば　いくとせも　へずにそのむね　ほろびなむ）」です。

こうして古事記の編纂が始まりました。

三、神話と神語

ここまでの話の中でずっと神話という表現を使ってきましたが、実は神話という言葉は幕末に翻訳語として生まれた言葉です。それまでの日本では「神語（かむかたり）」と呼んでいました。どうして幕末の翻訳家たちが従来からある「神語」という語を使わずに、新たに「神話」という語を造語したのかというと、そこには明確な理由があります。実は神話という用語は、英語の「Ｍｙｔｈ（Ｍｙｔｈｏｌｏｇｙの略）」の訳語なのですが、この「Ｍｙｔｈ」には「根拠のない作り話」という語彙（ごい）があるのです。

どういうことかというと、英語は元々イギリスの言葉です。イギリスはもともとはケルト民族の土地です。そのケルト民は多神教で、妖精を信仰します。花の妖精、木の妖精といった具合です。そこに一神教の王が侵略してきてできたのが英国で、先住民の信仰は否定され、根拠のない作り話の「Ｍｙｔｈ」とされたのです。そうそう、一例を示しますとケルトのお医者さ

んは女性で黒い服を着てトンガリ帽を被(かぶ)っていました。そして家の中で薬を処方するために大鍋でなにやら植物をぐつぐつと煮ていました。何か思い出しませんか？　そう典型的な「魔女」の姿です。あれは本来ケルトのお医者さんの姿なのです。それがいかがわしくて恐ろしい魔法使いのおばあさんにされてしまいました。そして数々の妖精物語も、すべて根拠のないつくり話、「ミス」とされたわけです。

ところが幕末ころの日本人にとって、我が国の神話は、我が国のご先祖のたいせつな物語です。それを根拠のないつくり話と一緒にされたら困る、というわけで、生まれた造語が「神話」だったわけです。もっと言いますと、一神教の神様は、天上界の存在です。しかし我が国の神様は、ご先祖をずっとかみの方にさかのぼっていった先の共通のご先祖の物語と理解されてきました。だいたいどの家も家系をさかのぼれば戦国時代くらいまではさかのぼることができます。そこまでが四〇〇年、十六代です。二十七代さかのぼると七百年前に至りますが、二の二十七乗で計算いただくとわかりますが、今を生きるひとりの人が生まれるために、七百年前に一億三千万人の祖先が必要になります。実際には七〇〇年前の鎌倉時代の日本の人口は七百万人です。これが何を意味しているかと言うと、すべての日本人が、何度もご祖先がかぶっている（共通している）ということです。そんな歴史を、我が国は万年の単位で過ごしてきています。つまりご先祖をずっとかみの方にさかのぼっていった先におわす、すべての日本人の共通のご祖先の物語だから、神語（かむかた）りなのです。

現代日本では、そうしたことが忘れられ、むしろ「神語」が死語になり、「神話」という言葉だけしか残っていない。これはとても残念なことです。

四、古事記と日本書紀

古事記と日本書紀の違いは図3にまとめてあります。ただしここに比較してあることは物理的な違いに過ぎません。大事なことは、そもそも古事記と日本書紀は、ほぼ同時期に同じ天皇によって編纂を命じられたのに、何故二つあるのかという素朴な疑問です。これに関しては色々なところで書かれていますが、よくあるのは、

・古事記は国内向けに天皇の正統性をアピールするための歴史書

・日本書紀は国外に向けて日本をアピールするための史書

というものです。しかし「天皇の正統性をアピール」といいますが、そもそも我が国の天皇は万世一系です。お隣りの中国のように王朝がその時代ごとによって変わる国であれば、当代の王朝が自分達の正統性を証明するための史書が必要ですが、我が国にはその必要がありません。

日本書紀はすべて漢文で書かれているから、国外に日本の歴史をアピールするために書かれた書だというのですが、たとえば古事記に有名な「以和為貴（和を以て貴しとなす）」という言葉があります。日本書紀に書かれた聖徳太子

図3

	古事記	日本書紀
成立年	７１２年（元明天皇の時代）	７２０年（元正天皇の時代）
巻数	全３巻	全３０巻＋系図１巻
収録年代	天地開闢から 第３３代推古天皇まで	天地開闢から 第４１代持統天皇まで
発起	天武天皇（６８１年）	天武天皇（６８１年）
編纂	太安麻呂・稗田阿礼	舎人親王他多数
表記	和化漢文（変体漢文）	漢文
収録歌	１１２首	１２８首
序文	有り	無し
目的（?）	国内向けに天皇の正当性をアピール	国外に向けて日本をアピール

の十七条憲法の第一条の言葉です。けれどもこれは中国人に見せても読めません。なぜなら「和」という漢字は、中国語では「AとB」というときの「と」、つまり接続詞だからです。英語なら「and」、算術記号なら「＋」です。「＋」や「and」を以て貴しとなすと言ったところで、意味がわかるはずもありません。要するに日本書紀は、漢字で書いてあっても、中国語で書かれたわけではない。つまり日本語を漢字で書き表したものだということです。外国人が読めないようなものは、外国向けに書かれたとはいえません。ローマ字で書いた文を米国人に見せて「読めるでしょ?」と言っているようなものです。

では、古事記、日本書紀が書かれた目的は何か。答えはそれぞれの書の冒頭に明快に述べられています。古事記は「諸命以（もろもろのみことをもちて）」です。意味は「何事も神々の御心の命ずるままに」というものです。「神々の御心の命ずるままに」を漢字で書くと「随神」となります。この字には別な読み方があります。それが「かんながら」です。「かんながらの道」それが古事記を通底するテーマです。

日本書紀は「豈無國歟（あにくになけむや）」とあります。「あに～や」は、一般にただの反語的表現と言われますが、ここで使われている「豈（あに）」という漢字には意味があります。この字は神社において、婚礼の儀などのよろこびのときにだけ打ち鳴らす「楽太鼓（がくたいこ）」の象形文字なのです。つまり「豈無國歟」は、「よろこびあふれる楽しい国はないだろうか、ないよね。じゃあ、自分たちで作ろうよ」と、こうしてできたのが我々が住む世界なのだと日本書紀は書いています。そしてその「よろこびあふれる楽しい国」が、日本書紀を通底するテーマとなっています。

五、シラスとウシハク

古事記では、伊耶那岐命（いさなきのみこと）と伊耶那美命（いさなみのみこと）が神々の命（みこと）に基づいて日本列島を生み、そのあとに天照大御神、月読命（つくよみのみこと）、須佐之男命（すさのをのみこと）がお生まれになります。その須佐之男命の末裔から、大国主が誕生します。

大国主神は、若いころから本当に苦労を重ねておおいなる国を築きました。これは現代でいえば、一代で身を起こして世界的規模の一部上場企業に育てあげたようなものです。ところが天照大御神は、その国をよこせとおっしゃる。どうしてかという理由が、図4に書かれています。建御雷神（たけみかづちのかみ）が出雲の国に降り立たれて、十掬剣（とつかのつるぎ）を波の上に逆さに立てて、その上に大あぐらを組んで、大国主神に向って次のように言うのです。

「汝の宇志波祁流（うしはける）のこの葦原の中つ国は、我が御子の知国（シラス）の国ぞと天照大御神がおおせである。汝の心やいかに?」ここに出てくる「ウシハク」と「シラス」という言葉は、我が国の根幹をなすたいへん重要なキーワードです。そこで大国主神話をすこし振り返ってみます。

大国主神話は「因幡素兎（いなばのしろうさぎ）」の物語から始まります。このお話は一般に、サメを騙したウサギ

図4

このふたはしら　かみおりいたる
此二神降到
いずものくには　いなさのおはま
出雲国伊那佐之小浜而（伊那佐三字以音）
とつかつるぎを　ぬきはらい
抜十掬剣
なみのほに　さかしまに　さしたてて
逆刺立于浪穂
つるぎのさきに　あぐらをくみて
跌坐其剣前
おほくにぬしに　とひてのらさく
問其大国主神言
あまてらす　おほみかみ
「天照大御神
たかぎのかみの　みことをもちて　とひつかはせり
高木神之命以問使之
なのうしはける　あしはらの　なかつくに
汝之宇志波祁流（此五字以音）葦原中国者
あがみこの　しらすくにとぞ　ことよせたまふ
我御子之所知国、言依賜
ながこころ　いかなるや
故汝心奈何」

がワニの報復に会い皮を剥がされてしまい、それを若かりし頃の大国主神が助けてあげるという話として知られていますが、古事記はそのウサギを「菟」と書いています。御覧頂いてわかりますように「菟」はくさかんむりです。つまり植物のことです。どのような植物かというとネナシカズラと言いまして、いわゆる寄生木のことです。けれど読みは「ウサギ」です。どういうことかといいますと、昔は行商人さんのことを雀（すずめ）といい、問屋街のことを雀が連なる町ということで連雀町（れんじゃくちょう）などと呼んだものですが、要するに背中に荷物を背負った行商人さんたちが、まるでウサギやスズメがぴょんぴょんと飛び跳ねるような歩き方をしたことから、そのような名前が付いたわけです。つまり「菟」とは行商人を指す漢字でもあるわけです。

またウサギが騙した相手も、原文ではサメではなくて「和迩（わに）」と書いています。これはポリネシアなどでいう「ワニュイ」のことで、簡単に言うとアウトリガー付きの帆船のことです。対馬では今でも大型船をワニ、小型船をカモと言っています。つまり「和迩」とは海運業者のことをいうわけです。

要するに古事記が大国主神話の最初に行商人を紹介することで、大国主が築いた大いなる国は、商業流通国家であったと言っているわけです。ところが商業というものは、できるだけ仕入れを叩いて高値で売れば儲かるわけですから、常に農林水産業の一次生産者は、買い叩かれて貧しい立場になります。天照大御神は「それではいけない」と言って、「我が御子の知らす国ぞ」と国譲りを迫られたわけです。

ここで出てくる「ウシハク」という語は、ウシが主、ハクが「刀を腰に佩（は）く」という表現があるように、身に付ける、私物化する、支配することをいいます（図5）。これに対し「シラス」は、そのウシハク権力者のさらに上位に、国家最高権威を置きます。そしてその国家最高権威が、民を「大御宝（おほみたから）」とします。（図6）。こうなることによって、民衆は権力からの自由を得ることができます。つまり「シラス」は、究極の民主主義を意味する言葉なのです。

ご清聴誠にありがとうございました。

（抄録　山田雅彦）

＊紙面の都合上全文掲載できませんでした。協会のホームページに全文掲載いたします。

図5

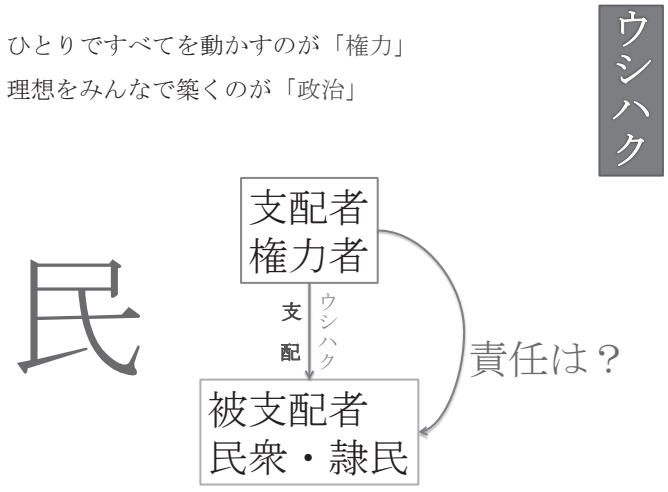
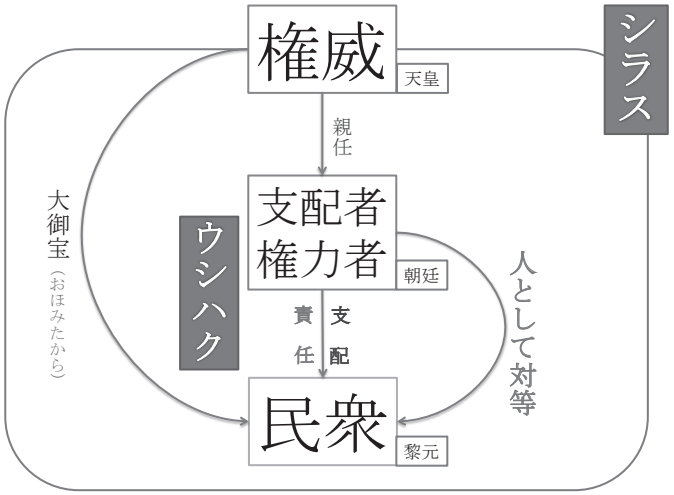


図6



〈第37回〉海の古代史

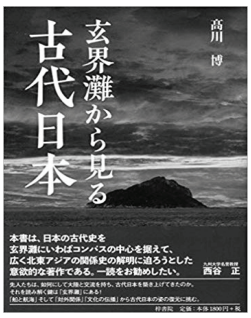
東アジアの古代文化を考える会　幹事　高川　博

一・海の仕組み

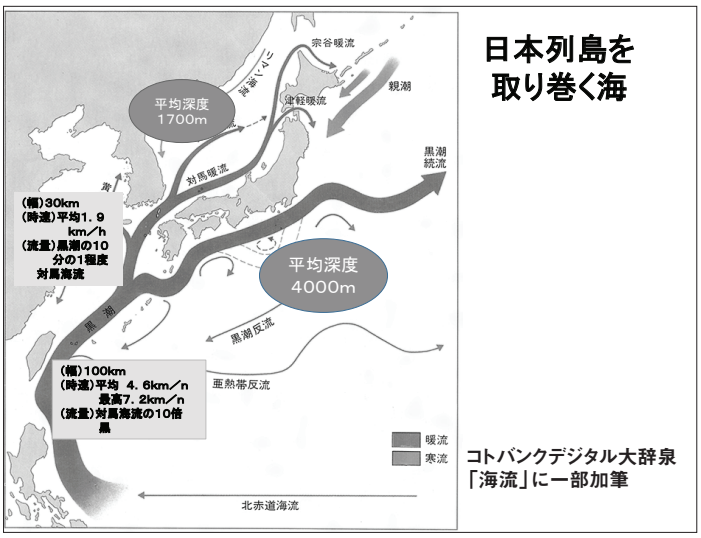
海は生きている。潮汐力は通常満ち潮や引き潮という表現で知られ、海面の流れが規則的に逆方向へと変わり、それに伴って海面が上下する。この現象は主に地球と月の位置により重力方向が変わることによって生じる。また日本列島の周囲には南から日本海流（黒潮）や対馬海流が流れ、北からは千島海流（親潮）が南へ流れる。この海流が生じる原因は地球の自転と風の流れによって引き起こされる。それに地形の要因が加わり、実際の海の流れは海域ごとに独自の複雑な様相を呈する。

近年の人工衛星や地上レーダーによる海洋観測という革新的技術の登場によって、地球上のあらゆる海には、直径が何十キロから何百キロという巨大渦の存在が知られるようになってきた。古代の人々、特に海に生業を求める人達にとって、その海の流れは多くの経験値の積み重ねによって理解されていたことは容易に想像できるが、このような巨大渦の存在は眼で見てわかるような渦では無く、全くわからなかったのである。

世界の海の中でも日本近海は特に荒れ海として知られる。偏西風の吹く中緯度地帯にあり、大陸からの気圧の影響は変化の激しい気候を生み出す。列島周辺を海流が洗い、複雑な地形は潮汐流の方向や流速にも大きな影響を及ぼす。このような厳しい環境の海を相手にしなければならない中で、古代列島の人々はどのように対応してきたのであろうか。



2019年1月刊行　梓書院　著者　高川　博
定価　1800円＋税



二・アジア、太平洋の海

日本列島周辺海域の航海を語る前に、近隣に接続する海域であるアジア、太平洋の海を考えて見よう。今から二十万年前に我々の直接の祖先であるホモサピエンス（新人）がアフリカで誕生した。そして七～六万年前にアフリカを出て世界に拡散する。ユーラシア大陸を東へ、北回りをとったグループもいれば南回りをとった人々もいた。氷期の東南アジア一帯には広大なスンダランドという陸地が出現していた。日本列島にやって来た人々のルーツが何処にあるのか、またどのようなルートを辿ったのか、現在でも諸説がある。

その中にスンダランドから海路北上して列島へやって来た、という説がある。詩的旅情あふれる柳田国男の「海上の道」を想起させる説であり、支持者も結構多いように思われ

る。（筆者は南方ルートそのものを否定はしないものの、海上ルートではなく大陸沿岸北上ルート説をとっている）

地球の表面積の三分の一、海全体の六十％を占める広大な太平洋には多くの島々が点在する。その西方海域の中部から南部海域はミクロネシア、メラネシア、そして東方海域はポリネシアと呼ばれている。言語学的にオーストロネシア語族と言われる彼らは、東はイースター島、西はインド洋を越えてマダガスカル島まで拡がったという実に壮大なスケールの話である。そして言語学以外に人類学、考古学、民俗学の知見により、そのルーツは何と台湾の原住民だとの有力な説がある。

注目すべきは、彼らの広大な活動海域は赤道を中心に南北の回帰線までの緯度に収まっていることだ。この海域は一定の貿易風が安定的に吹くという穏やかな海なのである。もちろん、彼らの造船技術や航海技術、そして冒険的精神なども高く評価されなければならない。アウトリガーカヌーやカタマラン（双胴船）、クラブクロウセイルという帆などを発明して、島々や夜空の星を頼りに新天地を求めて広大な海に乗り出したのである。

国立科学博物館では「二万年前の航海再現プロジェクト」として台湾から与那国島への丸木舟による渡海を今年夏に実行すべく準備中で世間の耳目を集めている。もし成功すれば、台湾発南島伝いの南から列島への人類移動を立証できたことになるという訳だ。ご承知のように与那国海峡（与那国島―台湾間）は、百十㎞に過ぎないが、この海域には流れの強い黒潮が立ち塞がっている。この流れを突っ切って与那国へ到達することは相当困難なチャレンジであろうことは容易に想像される。考古学的には先島諸島と台湾の関係性の有無は、未だ明確にされてはいないのが現状である。石器や貝斧などの出土品を見ると、むしろフィリピン諸島との関連性が高い。フィリピン東部海域から黒潮に乗って漂着した形を想定するのが妥当ではないか、と考えられる。

三・日本の船と航海の発達史

筏（いかだ）舟

一万六千年前までの旧石器時代の日本列島は、寒冷化により沿海州―樺太―北海道―本州―四国―九州は一体となり陸地化していた。これを古本州島と呼ぶが、瀬戸内海も陸化していた。列島への渡来ルートは北・南・西からという三方面が考えられるが、九州や本州の石器の状況から見て三万八千年前に列島に最初に人類が足跡を残したのは西ルートであるとされている。西とは朝鮮半島経由であるが、この時代の朝鮮半島と九州の間には海が存在していた。現在対馬海峡（玄界灘）と呼ばれるこの海峡の対馬の南北には四十㎞ほどの海があったので、何らかの海上運搬手段が必要であった。どのような渡海乗用具があっ

■**髙川 博**（たかがわ ひろし）

1945年（昭和20）3月　福岡県生まれ。福岡大学卒業。安田火災（現損害保険ジャパン日本興亜社）入社。埼玉県さいたま市在住。歴史文化活動に邁進している。

所属団体：「まほろば会」（旧安田古代史会）幹事、「東アジアの古代文化を考える会」幹事、日本産業退職者協会「歴史を考える会」ほか。

著書：『蓬莱島見聞録』文芸社、『玄界灘から見る古代日本』梓書院、ほか。

論文：同人誌「古代文化を考える」所収の「 国防と航海の観点から観た魏志倭人伝」「 移民の民・倭人考」など多数。

たか、考察する必要がある。この時代の東シナ海や黄海の大部分は陸地化していたが、今日では海に没しており、人骨や遺物などの痕跡を辿ることは不可能である。唯一朝鮮南部の状況では、尖頭器などの狩猟具は見られるものの石斧は無い。従って、丸木舟に必要な大木を切り倒すことは出来ないが、比較的小さな木を束ねて筏を造ることは十分可能であったろう。日本列島に足を踏み入れた最初の集団は筏に乗ってやって来たのではないか、と推察される。

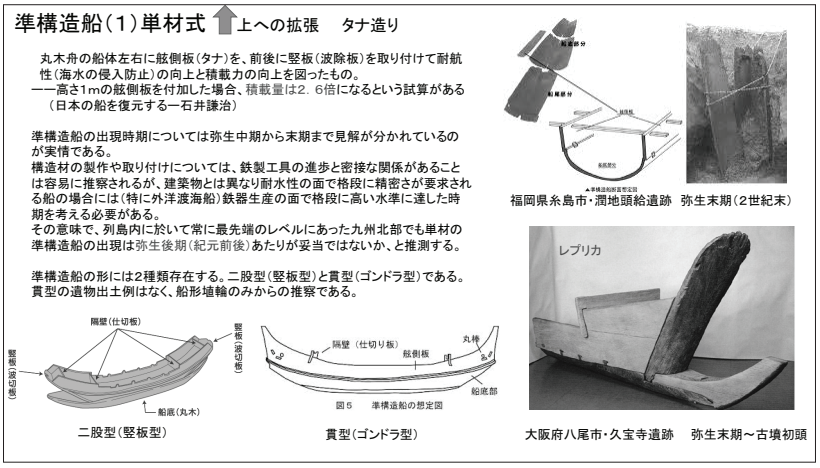
神津島・恩馳島（おんばせじま）航海ルート

伊豆半島南端（石廊崎）の海域は、相模湾流の影響を受け、航海の難所として知られる

古代人は、より安全な伊豆諸島島伝い航路を選択した、と推測される

38000年前の海岸線図
海面を80m下げた地図
恩馳島は神津島と、式根島は新島と一体

「日本人はどこから来たのか」 海部陽介



丸木舟

彼らは列島に到来後、この地にある豊富な森林資源を眼にして、大木を切り倒し、中を彫り窪めて舟を創り出すことに成功した。三万七千五百年前の静岡県沼津市にある井出丸山遺跡から出土した伊豆諸島・神津島産の黒曜石は、この当時既に往復渡海を行っていた明確な証拠である。そして、それを可能にしたものは世界的にも珍しく、いち早く登場した局部（刃部）磨製石斧である。

準構造船

丸木舟は旧石器時代の後も広く利用されたが、その発展形で、船体の横に舷側板を、前後に竪板を取り付けた準構造船が出現したのは弥生時代後期（紀元一世紀頃）であろうと推測される。木材の整形加工には鉄器が欠かせず、この頃の北部九州では鍛冶技術の発達により多くの各種鉄工具が生み出されるようになっていた。準構造船の登場により、海水の侵入を防ぎ人員や荷物の収容力が大幅に増えた結果、ある程度長距離の航海にも耐え得るようになったのである。三世紀の魏志倭人伝により弥生後期の対馬海峡渡海ルートはわかっているが、弥生時代の九州北部の諸勢力（クニ）も、同様にこのルートを手漕ぎの準構造船で行き交っていたであろう。

古墳時代も四世紀後半になると畿内のヤマト王権は宗像勢力と結んで、宗像―小呂島（おのろしま）―壱岐ルートを開発し常用するようになる。四世紀末には朝鮮半島動乱に介入して倭国は兵を送る。時期を同じくして馬文化も到来する。この時代の船は倭国も朝鮮諸国も準構造船であったと考えられるが、この丸木舟ベースの狭い船に馬を載せることは至難の業である。どのようにして馬を運んだか、は現在でも未解明で大きな謎として残っている。

準構造船でも可能な方法を模索すると、船体を連結した双胴船タイプしかないように思える。

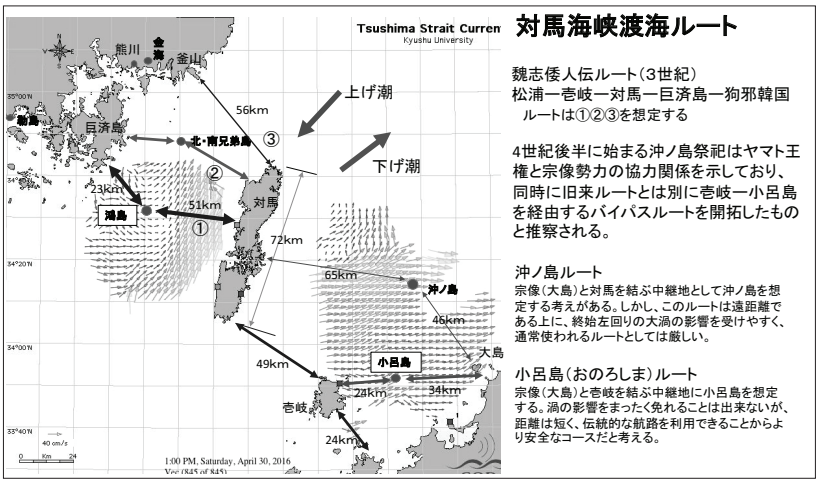
このスタイルにすれば連結部分に柵（馬房）を設けて複数頭収容可能となるし、世話役の馬飼いも十分にケアーできるのではないか、と考えている。

五世紀代の倭の五王時代は、この半島介入の動きの一環で捉えることが出来る。朝鮮半島南部の河川沿いや南西部の島々と沿岸部には続々と多くの倭系古墳が築かれるのだ。

構造船（帆掛け船）

帆掛け船（構造船）はいつ頃から造られたか、という問題は船の遺物が存在しないため考古学的にはわからないので、古事記や日本書紀などの記述、あるいは船体埴輪、古墳壁画、板材線刻画などによって推察するしか方法が無い。大きな船に多数の人員や馬を運んだという記述が散見されるのは六世紀になってからであり、やはりこの時期から帆掛け船（構造船）の建造が始まった、と見られる。丸木船ベースの船体から脱却して、船の底を始め全ての船体構造を板材で造った船（構造船）は、拡幅が可能で安定性が向上するために帆の使用も可能となる。風を動力源とする帆の使用は、それまでの手漕ぎの船と違って、長期の外洋渡海も十分視野に入って来る。高句麗との日本海通交、そして遣唐使の東シナ海直行ルートである。六世紀になると朝鮮半島では新羅が台頭する中で、親百済のヤマト王権と親加耶（新羅）の九州磐井勢力が対立し、最終的にはヤマト王権が勝利する。朝鮮半島では金官加耶や大加耶などの加耶諸国が新羅に併合される結果となる。

七世紀後半には新羅は唐と結んで百済を滅ぼす。遅れて百済復興軍に助勢した倭国は白村江の海戦で唐の水軍に完敗する。



対馬海峡渡海ルート

魏志倭人伝ルート（3世紀）
松浦ー壱岐ー対馬ー巨済島ー狗邪韓国
ルートは①②③を想定する

4世紀後半に始まる沖ノ島祭祀はヤマト王権と宗像勢力の協力関係を示しており、同時に旧来ルートとは別に壱岐ー小呂島を経由するバイパスルートを開拓したものと推察される。

沖ノ島ルート
宗像（大島）と対馬を結ぶ中継地として沖ノ島を想定する考えがある。しかし、このルートは遠距離である上に、終始左回りの大渦の影響を受けやすく、通常使われるルートとしては厳しい。

小呂島（おのろしま）ルート
宗像（大島）と壱岐を結ぶ中継地に小呂島を想定する。渦の影響をまったく免れることは出来ないが、距離は短く、伝統的な航路を利用できることからより安全なコースだと考える。

奈良時代（八世紀）からの遣唐使船は、全て東シナ海直行ルートであったが、片道平均七日間（最短三日、最長三十日）という記録が残されている。しかし帰国の際には冬場の北西風を利用せざるを得ないケースが多く、遭難事故が多発する結果となった。色々多彩な中国大陸文化を我が国にもたらした遣唐使であったが、まさに命がけの難事業だったのである。

ダブルカヌー模型（サモア）　ジョージ・ブラウンコレクション
国立民族学博物館

馬の海上輸送と双胴船（ダブルカヌー）の可能性

蒙古馬　ネット　Flickr photos tagged

2019年度社員総会報告

事務局

2019年度社員総会は6月12日（水）に築地コンワビルの13階第一会議室で開催されました。

まず平成30年度事業報告および収支決算に関する件が諮られ、審議の結果異議なく承認されました。さらに理事および監事それぞれ1名の選任に関する件が諮られ、提案どおり承認されました。なお、顧問および役員名簿を巻末に掲載しておりますのでご参照ください。

続いて報告事項に移り、2019年度事業計画および収支予算について報告がおこなわれすべての議事を終了しました。

前年度も収支均衡の予算をたて取り組みましたが、238万円余りの赤字決算となりました。主な理由は「私の大切な覚書」の頒布数が大幅に減少したことによるものでした。

今年度はより積極的な収支均衡予算を組んでおります。「事業開発委員会」を中心に収益の底上げを図るとともに、当協会の根幹である会員増加に取り組みつつ事業構造の徹底的な見直しを行ってまいります。

※今年度から年度表示を西暦とします。

平成30年度事業報告

Ⅰ 公益事業―高齢者の社会参加支援

1. 社会参加支援事業（定款第4条第1項第1号事業）

① 社会貢献事業

イ. チャリティコンサート

6月23日（土）に六本木のハリウッドホールで第14回チャリティコンサートを開催した。福祉施設利用者及び職員約252名を招待、その他入場者約366名と合せ600名を超える規模のコンサートを実現させることが出来、多数の礼状が届けられた。

昨年に続き本年も東京都善意銀行から感謝状が授与された。一方、広島支部では昨年に引き続きエリザベト音楽大学との共催で留学生支援のためのチャリティコンサートを開催した。会場は同大学のセシリアホールで、会員80名参加した。

ロ. 施設入居者作品の販売協力

11月6日（火）開催の「はつらつふれあいの集い」において、「虹の子作業所」入居者作品の販売協力を行った。

ハ. 寄付

関東：エンディングノート「私の大切な覚書き」の前年度頒布実績の1％のうち10万円を福島県双葉町教育委員会に寄付した。

埼玉会では前年同様独自にワンコイン運動を展開し6万円を埼玉県社会福祉協議会に寄付し、これに対し埼玉県社会福祉協議会から感謝状が授与された。

広島：留学生支援のためのチャリティコンサートのチケット売上代金から10万円を公益財団法人広島平和文化センターに寄付した。この寄付金は広島市在住の留学生を支援するための「ひろしま奨学金」の原資に充当される。

ニ. 留学生との交流・支援（広島）

留学生との交流会を2回実施、参加者は留学生延べ52名、会員延べ91名、ゲスト5名合計延べ148名であった。交流会の他、留学生との食事会を2回、卓球大会を3回実施した。行事全体で留学生の参加は延べ118名参加した。

ホ. ボランティア活動（広島）

『国際交流・協力の日』当日は48名が参加し、会場受付・案内・整理他横断安全誘導にあたった。また「桜の木を育てる会」の活動を実施し、ボランティア活動への参加者は年間延べ107名となった。

ヘ. 認知症予防事業

世田谷区下北沢で、平成22年6月以来毎月1回認知症予防事業「きたざわサロン」を開催している。バラエティに富んだ内容が好評で、参加者は毎月の開催を楽しみにしており事業として定着した。

ト．世代間交流事業

平成26年4月から毎月開催していた「シニアサロン杉並」は平成27年11月から「かがやきサロン杉並」に衣替えした。参加高齢者にはライブ音楽を楽しんでもらう他高齢者に必要な情報の提供等を行っている。本活動は平成30年2月に杉並区教育委員会から後援名義の使用を承認され、今年度からは区の広報・ホームページにも掲載された。

チ．ペットボトルキャップ、使用済み切手の回収

平成20年に開始したペットボトルキャップ回収は、本年度分44・14ｋｇで累計761・05ｋｇに達した。これはポリオワクチン380人分に相当するとのこと。

②　就業支援事業

株式会社高齢社を会員に紹介し、就業希望者は同社に申込む制度を整えている。本年度は希望する職務と提供される職務がマッチしなかったため、就業実現には至らなかった。

③　生活情報提供事業

イ．「私の大切な覚書き」（エンディングノート）

残された親族等に対し、本人の考え方や希望などを整理し、記録しておくための廉価でコンパクトなエンディングノート「私の大切な覚書き」を作成している。9年目の本年度は約16千部を頒布し、累計の実績は35万部を超えた。

ロ．成年後見制度の概要をホームページと機関誌マチュリティに掲載し、広く一般に公開した。

④　イベント事業ほか

イ．イベント事業

運営委員の努力と参加会員・一般参加者の協力により、活発に展開されている。平成30年度は関東22、広島29の同好会でイベントを実施、年間の延参加人数は約8千人を超えている。

ロ．地域会活動

関東地区は活動地域が広域なため、神奈川県（神奈川会）、埼玉県（埼玉会）、東京多摩地区（西東京会）、東京23区及び千葉県（京葉会）の4地域に分け、それぞれ地域会を置いて地域に密着したイベント活動を行っている。

ハ．広島支部の主な活動

二木会：毎月開催　年間延出席者数920名

世話人交流会：年2回　年間延出席者数130名

拡大常任幹事会：年1回　出席者数28名

2．対外事業（定款第4条第1項第2号事業）

1月22日（火）開催の内閣府主催「平成30年度高齢社会フォーラムin東京」に参加した。

当協会が会員となっている高齢社会ＮＧＯ連絡協議会が1月15日（月）に開催した「民間きずな国民会議」と6月13日に開催された同協議会の総会に出席し情報収集に努めた。

3．研修・講座事業（定款第4条第1項第3号事業）

ふれあいトークサロンを4回開催し、延べ131名が参加した。

4．広報事業（定款第4条第1項第4号事業）

イ．機関誌「マチュリティ」を外部関連団体、法人・個人会員向けに7月と1月の2回発行した。

ロ．ホームページには協会の概要、事業報告等の情報公開、イベント活動報告、機関誌「マチュリティ」全文などを掲載している。また、入会申込や「私の大切な覚え書き」注文のほかイベント申込がホームページから出来るようにしている。定期的に更新を行うと同時に動画も取り入れたこともあり、閲覧回数が着実に増加している。ホームページを見た遠方の方が会員になる例もある。

Ⅱ　収益事業

コンサルティング事業（定款第4条第1項第6号事業）

勤労者向け福祉活動の一環として企画された「福利厚生施設のアウトソーシング」事業に協力、企業の採用にともない仲介手数料収入を得ている。

Ⅲ　その他事業

1．親睦事業（定款第4条第1項第5号事業）

関東地区では平成30年11月6日、日暮里のホテルラングウッドで「はつらつふれあいの集い」を開催し参加者102名であった。また、広島支部では平成31年1月17日に141名が参加して新年懇親会が開催された。

2．ニュース発行事業（定款第4条第1項第6号事業）

関東地区では年6回（偶数月）、広島地区では年6回（奇数月）発行した。

Ⅳ　当面の課題―運営基盤の強化

1．法人会員

平成30年度は新規の入会が1社あった一方、退会が1社あったため年度末現在の会員数は30社・団体となっている。引続き会員の獲得に取り組む。また現会員への連絡・報告を密にし、一層の支援を得るように努める。

2．個人会員

協会活動のさらなる活性化のために会員獲得につとめたものの、高齢化に伴う退会者が入会者を大きく上回ったため会員数は年間で61名減少した。

関東地区　838名（うち正会員　511名、家族会員327名）
広島地区　651名（うち正会員　443名、家族会員他208名）
合　計　1489名（うち正会員　954名、家族会員他535名）

なお、関東地区のイベント参加率が約60％と判明したことを受け、各種機会を捉えイベント参加を呼びかけると共に会員に紹介協力を依頼した。委員会活動の中で会員増加に向け鋭意検討を進めている。

3．財政基盤の強化

法人会員・個人会員からの会費収入に加え、コンサルティング事業及び「私の大切な覚書き」の頒布に引続き積極的に取り組んだ。さらに、新規事業の開発に鋭意取り組んでいる。

当協会の公益活動について広く理解を求め、多くの会員から寄付金が寄せられているが、今後は幅広く外部からも寄付が募れるよう取り組んでいきたい。

2019年度事業計画

Ⅰ　公益目的事業―高齢者の社会参加支援

1．社会参加支援事業（定款第4条第1項第1号事業）

①　社会貢献促進事業

イ．本部および広島支部におけるチャリティコンサートの開催、広島支部主催バザーの実施、認知症予防活動「きたざわサロン」および世代間交流活動「かがやきサロン杉並」の充実、留学生との交流、ボランティア派遣、ペットボトルキャップ・使用済み切手の収集など、シニアの社会貢献への参加を促進する事業を実施する。

ロ．「私の大切な覚書き」頒布収入の1％に、会員その他の浄財を加えて東日本大震災復興関連事業及び熊本地震、西日本集中豪雨被災者への寄付を継続する。

ハ．地域活動として広島支部および神奈川会・埼玉会・西東京会・京葉会の活動を積極的に進める。

②　就業支援事業

高齢者の希望に合った就業形態で人材斡旋を行う機関を会員に紹介し、就業を支援する。

③　生活情報提供事業

イ．「私の大切な覚書き」の頒布事業を継続する。

ロ．高齢者住宅の現状、相続と遺言、エンディングノートの書き方、健康・医療問題、成年後見制度などについて各種資料の作成・配布及び講演による情報提供事業を行う。

④　イベント事業

シニアに社会参加と生きがいの場を提供することにより、社会の活性化に寄与すべく、関東・広島両地区でイベント事業を一層推進する。

2．渉外事業（定款第4条第1項第2号事業）

当協会の地域会と地域の公的機関（社会福祉協議会、教育委員会等）との連携を深め、地域に根付いた具体的な活動を推進する。

3．講演会事業（定款第4条第1項第3号事業）

「ふれあいトークサロン」を開催するほか、各

地域会でも適宜講演会を開催する。

4．広報事業（定款第4条第1項第4号事業）

① 協会ホームページの一層の充実を図り、広報活動を展開し、当協会への理解を深めてもらうと共に人材の発掘を図る。

② 機関誌「マチュリティ」を年2回発行する。

③ 「マチュリティ」の内容はホームページに掲載し、広く一般に公開する。

Ⅱ 収益事業

（定款第4条第1項第6号事業）

「企業厚生施設のアウトソーシング」事業及び新事業の開発に取り組み、当協会の財政基盤の強化とともに社会の活性化を図る。

Ⅲ その他事業

（定款第4条第1項第6号事業）

① 「マチュリティニュース」、「ヒロシママチュリティ」を隔月に発行し、個人会員へ積極的な社会参加を呼びかけると共にホームページに掲載して、広く一般に公開し、イベント参加を募る。

② 「はつらつふれあいの集い」その他、個人会員への協会活動報告と併せ会員相互の親睦をはかる会合を開催する。

Ⅳ 当面の課題―運営基盤の強化

1．法人会員対策

イ．新規法人会員の加入を促進する。

ロ．法人会員との連携を密にし、シニアの生きがいをサポートする各種情報やシニアに必要な情報の提供を通じて協会活動に対する理解を深め、一層の支援を得るよう努める。

2．個人会員対策

イ．関東地区の各地域会および広島支部を中心として、協会活動のＰＲを強化し個人会員の増強に取組む。

ロ．ホームページの内容を充実して広くシニアの社会参加を呼びかけ、会員増強に取組む。

3．財政基盤強化

イ．法人会員、個人会員増強による会費収入の増加を図る。

ロ．当協会の公益活動を広く訴求し、各界各層の理解を得て寄付金を募る。

ハ．エンディングノート「私の大切な覚書き」の頒布活動を推進する。

ニ．「企業厚生施設のアウトソーシング」事業及び新規事業開拓に協力に取組む。

4．地域会組織の充実

組織の強化並びに事業活動の充実につとめ、シニアが集まりやすい環境づくりから社会参加を促すなど地域に密着した活動を目指す。

平成30年度収支決算と2019年度予算

（単位：千円）

		平成30年度決算	2019年度予算
収益の部			
	法人会費	4,050	4,050
	個人会費	2,916	3,050
	会員負担金	2,378	2,175
	私の大切な覚書き	5,566	7,232
	コンサルティング	4,152	4,900
	受取寄付金	1,705	1,200
	その他	372	345
	合計	**21,139**	**22,952**
費用の部			
	人件費	5,531	5,039
	旅費交通費	1,958	1,630
	通信運搬費	1,216	1,070
	会議会合費	3,216	2,920
	印刷製本費	2,191	3,031
	賃借料	4,264	4,311
	委託費	975	1,105
	その他	4,170	3,846
	合計	**23,521**	**22,952**
当期経常増減		**△2,382**	**0**

（補足）

1．平成30年度決算は主にエンディングノート「私の大切な覚書き」の頒布数の減少から赤字決算になりました。

2．コンサルティング事業は「福利厚生施設のアウトソーシング」に協力して得た収益です。

ダウン症候群児等の療育作業訓練施設
『虹の子作業所の現況』

神奈川会　新島　健

虹の子作業所が、年一回小学校体育館を借り切って行っている大規模バザーのお手伝いを始めてから13年、既に数年前から同様の施設としては共通の課題でもある高齢化問題が大きくのし掛ってきています。

現在、職員達も歳を重ねた中で親達の介護も始まっており、又作業所の子供達も通える限りずっと在籍できるシステムにもなっています。近年医療の進歩により障害者の平均寿命が急速に伸びている中（ダウン症の場合、昔は20歳位までと言われていたのが、今や60歳を超えていることが判明している）、ご両親亡き後でも何とか日常生活が送れるようにと、指導者の下で5人位を単位としたグループホームの生活訓練も行われています。

また障害者は一般的に老化現象も早く出現するため、その対応も必要となってきました。

現在、作業所でお預りしているお子さん達は24名（うち七割がダウン症候群の人達）で、「ひとりひとりを大切に、楽しく、ゆっくり、ぼちぼちと…」をモットーに歩んでいます。

また、療育の観点から励みを持たせ自ら努力する気持ちを育めるようにと、各人の作業実績に応じた能力給制度を導入、一日作業所に来ると１００円、土・日の休日に来ると時給２００円、更に能力給として自分の作品が完成した段階でその作品の純利益の半分を支払うとの計算方式により、月一回の給料日には多い人で1万円位となり、平均一人５０００円位にアップしてきました。同類の作業所としては優秀な方だと思います。

虹の子から私共への期待としては、子供達は作品づくりに頑張るので先ずは現状行っている販売協力を今後とも長く継続して頂けることが一番有難い、とのことです。

特に日退協の皆様にはこのご縁を通じて、「障害者についてより深く知って頂けることも大変有難いことです。」と言われ、私共としても日常生活の中で何かサポートが必要な場面に遭遇した折には、タイミングよく「何かお手伝いしましょうか」と勇気を出して声掛けできるよう心して行きたく思います。

作業風景

第３回

海外に拡がる会員活動

京葉会　吉川敏孝

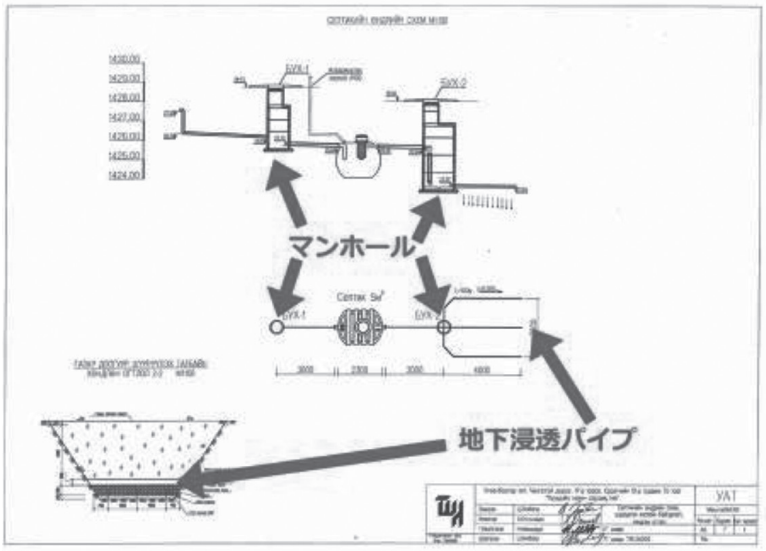
開発途上国　人道支援の一例

日本で２００３年頃から「企業の社会的責任」（ＣＳＲ：英語のCorporate Social Responsibility）という言葉が定着してきました。すなわちＣＳＲとは企業が活動の基盤となる社会との関わりにおいて負う責任で、ＣＳＲを重視する経営とは日常の企業活動の中に社会的公正性や倫理性、環境の配慮などを取り組んでいく事です。このＣＳＲの精神は、今や企業のみならず、一般の事業分野でも積極的に取り上げられてきています。公益社団法人日本産業退職者協会も、①チャリティコンサートに福祉施設入居者の招待、②認知症予防活動「きたざわサロン」の運営、③年金受給者向け生活情報誌の企画、④エンディングノート「私の大切な覚書き」の配布、⑤地域行事へのボランティア参加や留学生との交流等に取り組んでいます。社会貢献の活動場所も国内に限らず、国境を越えグローバル化が進んできている現状に対し当協会として海外にも目を向ける必要があると筆者は考えています。当協会の会員の多くは現役時代から現在に至るまで数多くの海外の支援事業に参加していると思われます。海外貢献活動としてマチュリティ１０７号に安達のり子会員の「イスタンブールとウィーンでの日本文化紹介と交流」１０８号に末松孝一会員の「竹とんぼが果たす国際貢献」を紹介しましたが、今回は筆者が会員の木更津ロータリークラブにおける人道支援事業としてモンゴルウランバートルにある児童発達・相談センターに浄化槽設備を設置したプロジェクトを紹介します。

プロジェクト概要について

（１）目的

モンゴルにおいて清潔な飲料水不足とトイレと浄化槽設備の不備が原因で、たくさんの子供たちが下痢などの感染症に苦しんでいます。遊牧の伝統に根ざした習慣がトイレの普及を遅らせ、衛生習慣の改善が進んでいません。都市に移ってきた住民も行政府も、トイレの重要性を軽視する傾向にあります。多くの学校や子供用施設にはトイレが無く、上下水道設備が設置されているものの故障していて、使用ができないまま放置されているのが現状です。筆者は現地での聞き取りと現地調査から子供たちが快適で健康な生活を送ることができるように、モデル事業として児童・相談センターに浄化槽設備一式を提供するプロジェクトが最も効果的であると判断しました。このモデル事業で、一年を通して子供達が快適で健康な生活を送れることを実感して



もらい、その事を児童指導員や子育て中の保護者を通して地域に発信してもらえる効果を期待しました。

（2）プロジェクト概要

２０１３年事業費として自己資金を含め2万５４６０ドルを計上。２０１４年3月末までに施設側浄化槽設備を引き渡し、今日まで正常に稼働していることを確認しています。浄化槽設備は土壌処理方式を採用し、浄化槽本体と地下浸透パイプは凍結防止対策として材料や設備の設置の深さに留意しました。

（3）恩恵を受けた人々へのプロジェクトの影響はどのようなものか

浄化槽の恩恵を受けている児童は、障害を持った児童及び家族が中心で、毎日平均15～20名、多いとき50名が施設を訪れています。以前は酷寒の冬でも敷地内の汲み取り式トイレまで出かけて苦労していましたが、浄化槽設備が完成したことにより屋内のトイレやリハビリ室のシャワーなどが使えるようになり、快適な時間を過ごすことができ、児童や父兄が大変喜んでいると報告を受けています。施設の利用者はもとより付近の住民も近代的なトイレに関心を持ち、予想以上の効果を上げていることを実感しました。ウランバートルの多くの児童施設やゲルは浄化槽設備がなく施設内に直接穴を掘ってそこで排便をし、いっぱいになると場所を移すというのが現状です。本設備がモデル事業として衛生的な浄化槽設備のあるトイレの普及促進に役立ち、衛生習慣の改善のきっかけになることに加え、し尿の直接放置による地下水汚染などの環境悪化の防止にも役立つことが期待されています。

（4）地域社会に対するどのような長期的影響が期待されるか

本設備がモデル事業として衛生的な浄化槽設備のあるトイレの普及促進に役立ち、衛生習慣の改善のきっかけになること、更にし尿の直接放置による地下水汚染などの環境悪化の防止にも役立つことが期待されています。

３回にわたって海外支援のプロジェクトを紹介してきましたが、多くの人たちが国際交流や人道支援を求めています。阪神淡路大震災や東日本大震災などを通してボランティア活動が国民の間で定着してきました。支援活動の中身も資金援助や無償・有償の援助活動等様々ですが、公益法人として取り組み可能なプロジェクトもたくさんあります。中長期的展望に立ち国際交流や海外の人道的支援事業に取り組む機運が盛り上がることを期待しています。

社会貢献活動

《第15回》チャリティコンサート～世界の名曲を集めて～

歌、ピアノ、トロンボーン カルテットの華麗なる共演

日時：令和元年6月22日（土）
会場：六本木・ハリウッドホール
後援：社会福祉法人東京都社会福祉協議会・東京善意銀行、学校法人メイ・ウシヤマ学園

❖歌、ピアノ、トロンボーンカルテットの華麗なる共演

チャリティコンサートのオープニング曲は恒例のエルガー作曲「愛の挨拶」です。ピアノ用に作曲された曲ですが、毎回赤塚太郎さんのアレンジでどの様に始まるのかが楽しみで、わくわくします。ここで近年のオープニングを振り返ってみましょう！　企画構成の赤塚太郎さんの演出、編曲です。

平成二十七年の第12回はフルートの谷藤万喜子さんにピアノ伴奏赤塚太郎さんで、原曲に近いクラッシック調の「愛の挨拶」でした。皆様には懐かしく思い出して頂けましたか？

第13回も谷藤万喜子さんのフルートと赤塚太郎さんのピアノ伴奏で、ジャズ風にアレンジされて、混声合唱によるスキャットでした。

昨年の第14回は赤塚太郎さんのピアノ伴奏で、初登場の西川茉利奈さんがバイオリンソナタ風に、「愛の挨拶」を奏でられました。

今年の《第15回チャリティコンサート》はトロンボーン四重奏による開会ファンファーレの如く、ダイナミックに華やかな吹き上げで開演しました。曲は髙嶋圭子さん作曲の「出会いは、はじまり」でした。恒例のオープニング曲「愛の挨拶」は二曲目としてトロンボーン四重奏と、赤塚太郎さんのピアノ伴奏で望月友美さんのアドリブが入ったスキャットにより歌われ、チャリティコンサート第一部が始まりました。ご案内の様に今回初登場の「トロンボーン・カルテット・ティンツ」の皆さんが新たに参加されました。メンバーはバストロンボーンの中村弥生さん、テナートロンボーンの小和田有希さん、中村友子さんと小宮山碧さんです。初めに初登場の楽器トロンボー

出演者の皆さん

ンの紹介が小宮山碧さんからありました。金管楽器としてマウスピースからの吹き方の色々、音階の出し方、バストロンボーンとテナートロンボーンの違いを音を出しながら、楽しく判りやすく、解説をして頂きました。

いよいよ演奏に入り、最初の曲は楽器トロンボーンにちなんで、おなじみのジャズナンバー、ヘンリー・マンシーニのバラード「酒とバラの日々」の演奏へとコンサートは続きます。

歌声はメゾソプラノ望月友美さんの独唱で愛の曲を二曲「愛の賛歌」と「愛の小径」が会場を振るわせます。演奏会では赤塚太郎さんが司会進行をしていきます。ショパン作曲のピアノワルツ第九番「別れのワルツ」の曲解説を頂き、巧みに優雅に独奏して頂きました。第一部最後の曲はロバート・ワイズ監督の映画「サウンド・オブ・ミュージック」メドレーです。音楽好きの家族と家庭教師がナチスドイツからスイスへ逃れるブロードウェーミュージカルで家庭教師マリアが歌を通して、子供達と打ち解けて行く様をジュリーアンドリュースが演じます。アルプスホルンを思わせるトロンボーンが吹かれ、望月友美さんがテーマ曲「プレリュード・サウンド・オブ・ミュージック」を歌い始め、「マイ・フェイバリット・シングス」に続きます。赤塚太郎さんの映画ストーリー、曲解説が入り「ドレミの歌」が始まります。演奏は出演者全員でハンドベルによる共演をします。「ドレミの歌」は中でもポピュラーな一曲です。ここで思わぬハプニング！　社会福祉施設招待の皆様から手拍子が始まり、微笑ましく会場は一気に盛り上がりました。「ひとりぼっちの羊飼い」は中村弥生さんがバストロンボーンをパーカッションに持ち替え、望月友美さんがヨーデルを奏でます。皆様に知られている名曲「エーデルワイス」、「すべての山に登れ」を歌い上げ第一部を終了します。第二部は「トロンボーン・カルテット・ティンツ」の「ふるさと」で開演しました。拍手に

望月友美さんとティンツの皆さんの演奏

赤塚太郎さんの演奏

花束贈呈

会場風景

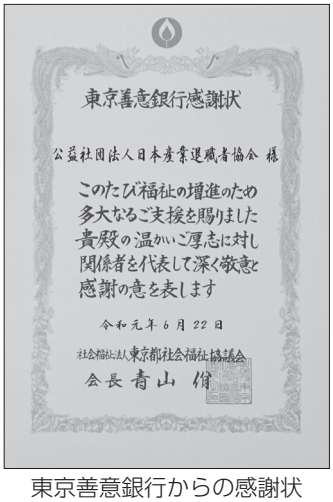
続き「にほんのうた」を全員で演奏しました。「花」、「荒城の月」、「箱根八里」、「からたちの花」、「早春賦」、「浜辺の歌」、「夏の思い出」、「花の街」を望月友美さんが熱唱です。トロンボーン・カルテット・ティンツのCD収録曲で映画「海の上のピアニスト」より本日四曲目の愛の曲「愛を奏でて」を聴かせます。第二部の赤塚太郎さんのピアノ独奏曲はショパン作曲のポロネーズ第六番変イ長調作品53、人気が高い通称「英雄ポロネーズ」です。

続いて披露する宮沢賢治作詞作曲の「星めぐりの歌」は髙嶋圭子さん編曲でトロンボーン・カルテット・ティンツが２０１８年東日本大震災の復興支援チャリティコンサートで披露した曲で、宮沢賢治が妹を思って作り、実際の星座の姿を詩に込めています。進むところ最後の曲は今回三曲目の映画音楽「アナと雪の女王」より、「Let it Go」で、出演者全員による熱演でした。アンコールを兼ねて、参加された会場の皆様と出演者全員で「ドレミのうた」、「ふるさと」を元気に合唱し、終演となりました。終演後、日退協女性スタッフにより出演者全員に花束贈呈が行われ、盛会裏に第15回チャリティコンサートを終了しました。

❖「チャリティコンサート」はＪＡＲＰの社会貢献促進事業の大切なイベント！

第15回チャリティコンサートは例年通り学校法人メイ・ウシヤマ学園の「ハリウッドホール」を借用させて頂き、総合司会を埼玉地域会の倉片厚子さんが担当し、社会福祉協議会施設利用者３００名（車椅子10席含む）と一般入場者３０８名総勢６０８名の参加により、盛大に開催されました。このコンサートは、チケット1枚を購入された一般入場者がお一人の施設利用者を招待する事を目的に開催される社会貢献事業であります。一般的なチャリティコンサートは入場料収益の一部を或いは、出演者が出演料の一部を寄付する等金銭的支援が一般的ですが、日退協のチャリティコンサートは福祉施設入所者を招待する、普段演奏会に行きたくてもなかなか参加しにくい方々を招待するコンサートであり、貴重な機会であると自負しています。同時にダウン症児等の訓練施設「虹の子作業所」入所者作品の販売、女性会員有志による手作り作品の販売、参加者からペットボトルキャップ、使用済み切手の回収をする等の社会貢献事業を行いました。

「虹の子作業所」入所者作品の販売


東京善意銀行感謝状

東京善意銀行からの感謝状

今年は協会設立35周年の記念公演でもあり、会員60名を超える方々の協力を得てみんなで作り上げたチャリティコンサートになりました。開催にあたりお手伝い頂いた方々、またご参加頂きました皆々様に心より感謝申し上げます。

第15回チャリティコンサート実行委員会

第16回チャリティコンサート開催決定！

開催日時：令和２年６月21日（日）
開催場所：銀座ブロッサムホール

マチュリティ談話室

「ガンバレ」の意味は

広島支部　市村　章

障害者雇用に携わった折、相手の方に励ます積りでガンバレと申し上げたところ、彼は日々ガンバっているのにこれ以上ガンバレというのですかと、抗議を受けた事を思い出します。私は、ハンディを持つことに引っ込み思案になるのではなく、自信と誇りを持ちオンリーワンを目指して欲しいと彼に言ったのです。励ましが苦しみになってはいけない。個性と工夫を凝らし、やりがいを持ち、楽しく働くことです。

広島支部の囲碁同好会で、毎月の例会に出席していますが、ガンバって勝てるものではありません。ガンバルことも必要ですが、また、精神力だけで勝てるものでもない。勉強し、教えられ、修行することにより気付くことがガンバリです。

横綱として期待された稀勢の里は短期間で引退することになりました。励ましが彼にとっては苦しみであったと思います。負けることから逃げることが出来なかったと思う。彼は稽古がしたくて堪らなかったと思う。場所中の怪我がもとで充分な稽古が出来なかった。ガンバルのではなく、怪我を治すことに専念することを余儀なくされた。ガンバっても負けることは目に見えていた。勝たねばという重圧に抑え込まれ、精神的に立ち直ることが出来なかった。彼は、勝負と怪我に負けない心を持ち、土俵を愛し、諦めなかったからガンバレたと思います。

マラソン界の名伯楽、故小出監督の指導方法は、選手をほめてほめて選手がガンバルように指導しました。絶えず選手と二人三脚で多くの優秀な選手を育てた。ガンバル環境を作り、その結果高橋尚子選手は、シドニー五輪で金メダルを手にしました。

簡単にみんなガンバレと言うが本人にとっては大変なことです。天才にとっては必要ないことですが、凡人は日々の小さい事の積み重ねの努力が必要です。努力してガンバっておれば、実力がついてきます。次にあくなき向上心と挑戦するための創意工夫をする必要が生まれてくる。つまり、勉強は考えを生み修行は気づきを与えてくれます。ガンバルなかでの体験を通じ有言実行の実力が生まれてきます。やりたいことは諦めては駄目です。自分の能力・才能は低いという謙虚さの中に、自分のエネルギーを完全燃焼させるガンバリがあると思います。

ガンバルことは努力・創意工夫・精神的なものの結果だと信じます。どんな結果であろうが熱中し、夢中になり、好きだから「ガンバル」が生まれてきます。

みんな、ガンバロー！

国際結婚は日本を救う

京葉会　小高　宣子

「キンコン♪」耳慣れたメールの音に、スマホを見た私は小躍りしました。あれは２０１８年7月の事でした。メールの送り主は、見知らぬ外国人名で、ルイスとユリアと書かれていました。文章は日本語です。読み進むと、私の営む結婚相談所と提携したいという相談でした。

結婚相談所デュマンは中野駅から徒歩1分に在る小さな会社です。

20年来、カップルを育て、結婚へとリードする仕事に携わって来ました。出逢いの機会をご提供し、多くの方に幸せな人生を歩んで欲しいという想いを胸に、日夜、会員さんとお会いし、お見合い時の注意点や異性の心理をお伝えし、時には家族に接すると同じように叱咤し、背中を押して来ましたが、なかなか成婚率は上がりません。そんな状況で、3年前に、知人のロシア人女性を専門に日本人男性に紹介している相談所のお声掛けで、弊社の男性会員さんとロシア人女性がめでたく成婚したケースがありました。

そのカップルは今、幸せな家庭を築いています。そして私も独自に海外の相談所とネットワークを作り、より懇切丁寧に、そしてなるべく安価に紹介サービスを提供したいと願っていました。そこに届いたのがルイスとユリアからのメールだったのです。ユリアはウクライナで結婚相談所を営むビジネスウーマンです。ハリコフという首都キエフに並ぶ大きな町でスタッフを雇い欧米の男女も顧客に持つ、やり手です。ルイスはフランスのパリ出身で貴族の称号を持ち、日本でのビジネス経験も豊富な自称「サムライ」です。

２人は昨年の9月に東京を訪ね、私と通訳のスタッフと4人で美味しい和食と日本酒を楽しんでくれました。

そして日本では弊社デュマンと独占契約を結び、ウクライナ女性と日本人男性のご成婚を目指して走り始めました。この七か月間で国際結婚の会員として登録いただいた方が4名です。そしてお二人が既にウクライナを訪ね、女性とデートし、今も成婚に向けて愛を育んでいます。

今後はベトナムやスリランカの相談所とも提携し、より多くの結婚の機会を提供して参ります。

結婚率が下がる中で国際結婚は少子化を食い止める防波堤になると信じています。

ゆるり　ゆらりと

京葉会　中村　信子

「え、まだ、同じことをしているの?」と、呆れるばかりです。元号が変わり令和になりましたが、昭和の「もはや戦後ではない」という経済白書の序文の一節にある頃に生を受け、平成、令和と生きることになっているのにです。

改めて思い起こしますと、何と、優柔不断な生き方をしてきたのであろうかと、自分自身で落胆することしかりです。

学生時代には、一般の女子とは同じような生き方をしたくないなどと豪語し、いろんな経験を積み重ねて、確固たる女性となることをずいぶんと夢見て、利他のために、自分を律して等と思いながら、それでいて、人一倍

頑張るわけでもなく努力するわけでもなく、ゆるりゆらりと、人生を送ってきたように思います。あの思いは、一体何だったのでしょう。

いけない、いけないと思いつつ、時間だけは、刻々と過ぎていき、今に至っています。

何かで読んだ本のなかに、「林住期」という期間があることを知りまして、私もそろそろその域になりたいと思い、昨年あたりから、自分の気持ちに沿って、自由に有意義に時間を使いたいと思うようになっております。その為には、一旦、今の仕事を辞め、私自身の思うままに人生を楽しもう等と思っていながら、その思いを、またしても、何か月もずるずると引きずりながら今日に至っています。自分の時間をどのように使いたいのか、どのように過ごしていきたいのか、夢としてはいくつかあるのですが、実行に移すことができないままなのです。

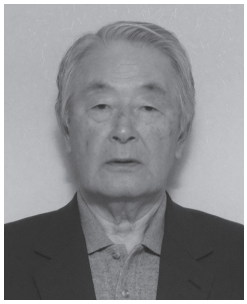
「仕事としてではなく、どなたか、なにかのお役にたてるようになり、実り多い一日を過ごしたい」と、漠然とした思いを、毎日のように願いながらの不履行。

ほぼ、二十年前に、介護保険という制度が施行され、その当時、「これからは高齢社会に対応できるこの業界かしら」と、何となく入った世界ですが、私自身が、高齢者の定義である年齢となり、そろそろ支援する立場から、支援を受ける立場になりつつあります。

援助を上手に利用する力を「受援力」と言うのだそうですが、今後は、私自身の「林住期」を、適度に「受援力」を生かしながら、ゆるりゆらりと生活を維持していくことができればと、願っているこの頃です。

我が健康管理

広島支部　細戸　陽太



職場の先輩のご紹介で、12年前、仲間に入れていただき、二木会、ゴルフ同好会、パソコン・デジカメを楽しむ会、ボランティア委員会に参加させて頂き、退職後の空白を大いに楽しませて頂いております。傘寿を迎えた昨夏、大腸ガンの健診で陽性となり、精密検査の結果盲腸ガンがみつかり、即入院、摘出手術を受けました、幸いにも発見が早くステージ2、転移も見られず19日間で退院でき、今は従前の健康状態を保っています。62歳の健康診断で糖尿病の精密検査を受けるように勧告され、自覚症状はもちろんのこと多少お腹が出てきていましたが体重も73kgぐらいで、なぜと随分落ち込みました。

酒は若い時から、ほとんど嗜みませんでしたが、タバコはこのころは40本以上吸っていました。悩んでいても解決しないので、思い切って、次の年明けに入院し、糖尿病にいかに対面していくか、正しい対処法を見出してもらうことにしました。

適度な運動、飲み薬を服用し血糖コントロールを行えば大丈夫と入院後11日目で退院許可が出ました。爾来、薬物療法とその時の状況に応じたウォーキングを続け何とか健康を保って来ました。多忙を言い訳にサボり癖が付き退職1年前ごろには歩行運動から遠ざかり、体重も81kgに増え、食後2hの血糖値が160～190を示すようになり、糖尿病境界型となっておりました。そのような状態で広島に帰ってきてから、心機一転、ウォーキングを始めました。何分にも時間は十分あり、続ける意思の有無だけで、流石に自分の体重に恐れをなし、スーツがすべて使えなくなる経済的脅迫からあまり抵抗なく続けるこ

とが出来ました。ここ11年間、天満川の両岸を四季の移ろいを楽しみながら約９Kmを90分掛けて歩いています。お蔭様で体重も71kgまでに戻りましたが、ここ2年間は実施率50％とサボり気味でした。

昨夏の入院以後体力復帰を目指し、年間２０００Km達成すべく、同じような志の老若男女と定刻の挨拶を交わしながら毎日続けています。食事管理については多少カロリーが理想値に近づいてはいますが、まだまだ自信がもてません、せめて運動だけでもしっかりと続け、健康寿命を延ばし、横好きのゴルフがいつまでも続けられることを願っております。

留学生の失踪問題に思う

京葉会　宮脇　章郎

会社生活43年、最後の赴任地シンガポールから帰国して２０１５年春に退社。ぶらぶらしていたが思い直して職探しに。教員免許を持っていたので専門学校の求人に応募、アジアから来た若者に日本語で法律を教えるのだという。仕事で飛び回っていたアジアの人達への恩返し、などと思い契約した。

さて初日、資料を準備して教室へ。しかし何かおかしい。皆おしゃべりに夢中で教師への関心が無い。出欠を取ると皆元気に返事をする、と喜んだのは数分だけ。出欠確認が終わると雑談する者、寝る者続出。二回目からは絵や写真を多用し、プロジェクターで写し、あれこれ工夫をすれども変わらず。やがて事務所の指示で生活指導のための個人面談を始めた。その結果、大半の生徒は勉強ではなく働くために来ていることを知った。故国では若者が多い割には仕事が無い。「日本は米国などと比較して簡単に入国でき、仕事もある」と言う斡旋ブローカーの言葉を信じ、百万円相当の金を親戚・知人から借金してブローカーに払っている。さらに来日後は年間70万円ほどの学費を払わなければいけない。学生ビザの為、週28時間までとアルバイトは制限されている。バイトで稼ぎながら生活し、学費を払い、故国の借金を返していくのだから苦しい。少しでも稼ごうと時給の高い深夜のバイトが増えるのも当然。朝、学校に来たら眠い！実情を知ってから無理に彼らを起こすことは止めた。

二年生の夏からは就活の時期、教師も職探しを助けるべく奔走する。借金もあるし帰国しても職はないから彼らも真剣。何とか就職して就労ビザを取ろうとするが、日本語のレベルが低く中々行く先が決まらない。ブローカーの甘言に乗って来日したのが過ち、と言うのは簡単だが、日本側の態度も原因の一つではないかと感じる。単純労働を中心に人材が欲しいのだが、さりとて外国人を受け入れる覚悟がはっきりしない。中途半端なのだ。そのため、受け入れ体制や現地での誘致活動が不十分でブローカーが蔓延る。心からは歓迎せず臨時の人手としか見ない国、そんな国に優秀人材は来ない。全く受け入れずにいるのでないなら、働いてみたくなるような制度で優秀な人材を獲得し、併せて日本へのファンを増やすことが子や孫の世代が国際社会で生き抜くためには不可欠と思うのだが。

ひとこと「元号」

●令和に想う

埼玉会　石井　憲

令和の名付け親と言われている（?）国文学者の中西進さんは「数の羅列の西暦とは違い、元号は文化そのものだ」と仰っています。

団塊世代の私としては、昭和の思い入れが深いのですが、70、80、90年代などと言われてもピンときません。

過ぎ去りし明治・大正・昭和・平成を懐かしみ、新しい令和に思いを馳せる。そんな元号を時代（文化）として、感じられる日本の和暦は素晴らしいですね。

●元号について

埼玉会　薄井　繁

埼玉会のイベントで、史跡足利学校遺跡図書館にて国宝書籍と「元号」の企画展を観て参りましたが、日本元号は645年の大化から始まり平成に至るまで日本の元号として継続使用され、今日世界に類がないとのこと。

新元号「令和」が決まり、国民の大多数の人が歓迎しており、心弾む思いがあります。

日本古来の国書万葉集からの出典につき、この和暦を文化発展のため励みたいものです。

●令和改元に思う

京葉会　大里璋子

今年の五月一日から令和元年（皇紀二六七九年）になりました。重苦しい平成の幕開けとは異なり、華やかな内に新元号が始まりました。

書類の手続き等には西暦が便利ですが、やはりあの時代…となると元号は切り離せません。

昭和・平成・令和と三つの時代を生きることになり、急に老人の心境（もうとっくに後期高齢者）のこの頃です。

●「元号」に思うこと

京葉会　大友　彰

大化の改新、保元平治の乱、応仁の乱など高校時代に日本史の授業で学んだ。これらの歴史上の事柄は元号があることでその時々にどのような事が起きたのかイメージがし易い。単に、数字が並んでいる西暦ではピンと来ない。

古希を目前にした私は、昭和、平成、令和の三つの時代を生きる。昭和が青年期、平成が壮年期そして令和が老年期になるのだろうか。令和の時代を何年過ごせるかは分からないが、令和という元号に込められた願いが叶うよき時代になって欲しいものである。

●元号・改元への雑感

京葉会　小川克己

平成への改元時とは打って変わった祝福ムードの中、定年後に再雇用として働く我が身には10連休の恩恵はいずれ迎える完全リタイアの予行演習。とはいえこれがその後ずっと続いたら…。そのための日退協？

上皇様の譲位のご意向の鮮やかさに比し、いつまでもハンドルを手放せない高齢者の免許証返納や権力を手放せない各界の跋扈老人の所作。

せめて我が身の引き際、散り際は不様とならず潔くありたいものです。

●「昭和」は遠くなりにけり

西東京会　岸　伸和

就学前の頃、ラジオ番組の懸賞が当り「キシシンワ」ちゃんと放送された時、姉兄に大笑いされたのがショックで大泣きした。自分の名前の所以はどうだったか覚えがないが、六歳上の兄が「昭」なので、終戦を跨いで生まれた兄弟に「昭和時代」の平和を願い名付けたのだろう。小さい頃、よく喧嘩もしたその兄は病と闘い、四月十日、春の嵐に舞う花片に包まれて旅立ってしまった。

桜花舞う昭和の想い彼の空へ

●粋酔会（すいようかい）

神奈川会　熊田昌秀

広島支部に在籍していた頃、先輩と粋酔会と言う会を結成し水曜日の昼間にお酒を飲み、ひとりが問題提起しそれを肴にと言う楽しい会を持っていました。酒が進むと最後は「世界の中の日本」で宴を終え、平成最後の広島での楽しい思い出です。

令和の名は「梅花の宴」がその起源になったとか、歌を詠み酒が回ってくると天下国家を論じていたと思い

ます。いつの時代も酒と人、人と人の対話は続いて行くと感じています。

●令和は地方都市の創成を

広島支部　児玉光雄

激動の昭和が終わり、平成は自然災害に見舞われながらも平和裡に過ぎた。迎えた令和は平成にやり残した課題の経年変化したヒトモノを補修しながら再生させる修復時代になりはしないか。古民家や村の廃校をホテルや水族館に変え活性化した事例もある。デジタルの波に乗りながら生活の質を高める術を習得した若者達は、東京一極集中を排し先進国の活気ある小都市を見習って、地方拠点都市の創成に挑戦して欲しい。

●違和感

広島支部　外前田　恵

我々が日常会話で何気なしに相手の年齢を聞くとき「何年生まれですか?」と聞く、返事は「昭和〇〇年です」と返事が返ってくる、西暦で返ってくることは稀れである。

確かに元号は私達の生活の尺度として身に沁みついている。ところがパソコンを始めてから書類、写真、その他のデータを整理するには元号を使うことは皆無である、こちらは西暦のみ。元号と西暦を常に意識しなければならない違和感のみが残る。

●昭和・平成・令和三代を生きる

広島支部　津村明甫

今年で79才になる私も、昭和・平成・令和三代を生きる仲間である。私の人生は、5才の時、広島での被爆によって両親を失うという大きな喪失に始まり、復興と経済急成長、更に大災害の、いわば日本にとって疾風怒濤の時代の中に生きて、今、少なくとも身辺では静かな今日がある。「令和」は、穏やかで平和な時代を祈念して命名されたという。自分にとっても、また世界にとっても心からそう願いたいものである。

●心豊かな時代たれ

広島支部　橋本　保

「欲しがりません勝つ迄は」と衣食住に事欠く昭和初期に育った我々熟年者にとって、平成は戦争に巻き込まれることもなく平和な良き時代であったと思う。

今の青・中年者はどうであろう。物質的にはある程度余裕があるが精神面はかなり厳しいものがある様に思う。新しい「令和」の時代が心豊かな時代であることを願います。

●時間厳守

神奈川会　蓮井　暁

旧帝国海軍の教えでは、「五分前の精神」という言い伝えがある。要は「定刻五分前」に身の回りを整い待機しておくことである。（勿論心の準備も）、現在もこの伝統を海上自衛隊に引き継がれているようですが、陸上、航空各自衛隊にはないようです。昨今天災事変を始め身の上に何が起こるか想像もつかない日々ですが、未知の場所に出かけた際、不測の災難に遭遇した場合の対処方法を考えておく必要がある。そこでこの「五分前の精神」を見習い未知の場所に到着後五分でなく、「三十分前の精神」として設定、自ら東西南北の方角を各五分、合計二十分を費やし、各場所の状況を把握、終了後五分間で体調を整え、計二十五分、残りの五分で精神統一し、時間が来るのを待てばよいのでは。如何でしょう。

●新元号に思う

広島支部　平石純一

5月に令和元年が幕開けした。

「昭和」は、青春そのものだった。恐れるものはなく、何にでもチャレンジできた。「平成」は、愉快な時代であった。東京転勤になり、広島に戻るまでの19年間、仕事も頑張り、ゴルフや登山に熱中し大都会の恩恵を受けた。良い思い出だ。

「令和」は、どんな時代になるのだろう。安全で活気あふれる世になってほしい。個人的には、まだまだ第二の青春を謳歌したいものだ。

●元号

西東京会　松﨑敏夫

元号が令和となって、感じたのは「違和感」。元号が変わって新しい時代になる。初めての日本由来の元号。降って沸いた万葉集ブーム。令和商戦。なんか変。元号が変わっても世の中が変わる訳でもないし、日本由来と言っても「和銅」は何だっけ。この騒動疑問だらけ。ただ本当の違和感は、この流れに逆らえない雰囲気。世の中のお祝い気分や浮かれ気分に、水を差すことを躊躇してしまう。そんな雰囲気が窮屈な時代を感じさせる。

イベントだより

囲碁会

■第57回　囲碁大会

春の囲碁大会が、5月29日（水）に市ヶ谷の日本棋院本院で参加16名で開催されました。

対局ルール等の説明の後に小川委員長代行より開会宣言があり、対局が開始されました。

3名の女性の参加もあり、和やかな中で熱戦が繰り広げられ、左記の優績者が決定いたしました。

Aクラス　優勝　逢沢悦子　六段
　　二位　大和久修　六段
Bクラス　優勝　大沼幸恵　二段
　　二位　弘中顕録　五段

各クラス優勝者のコメントです。

・Aクラス　逢沢悦子　六段

この大会は4年程前に、小川九段に紹介していただいて参加するようになり、いつの間にか私にとって大変楽しみな大会になっています。

今回は「一勝できますように」と思って参加させていただきましたが、55回大会に続いて、又優勝できるとはまことに幸運なことでした。

仲良く囲碁を打ってくださった皆様、運営の方々、大変ありがとうございました。

・Bクラス　大沼　幸恵　二段

囲碁を覚えてから半世紀近くなりますが、その間級位から抜け出せずにおりました。

数年前に小川九段からご指導をいただく機会を得まして碁の本当の面白さが分かりつつあるように思います。高齢者となった私にとって生きる糧になっておりますが、3年前に小川九段の紹介でこのような楽しい会に参加させていただけたこと、とても幸せに思っています。

主催者、会員の皆様に心よりお礼申し上げます。　**（上村洋一）**

江戸東京歴史散歩の会

■第92回　亀戸七福神めぐり

（1月7日　参加者41名）

亀戸七福神はJR亀戸駅を起点として、往復約5キロと歩行距離が短く坂もなく、周辺も下町情緒にあふれているところで、散歩コースとしては最適のコースです。

天祖神社にて

戦前から亀戸七福神巡りは盛んに行われていましたが、戦災にあって一時中断しました。昭和53年に地元の有志・寺社の関係者を中心とした努力により復活したようです。亀戸は元々亀の形をした島が陸続きになり村となり、名水が出たことから亀井戸となりました。その後「井」が取れて亀戸になったと言われています。

駅から賑やかな商店街を通り抜けたところにあるのが、最初の目的地常光寺（寿老人）です、本尊は阿弥陀如来。江戸六阿弥陀詣の六番目で、江戸時代の人にとっては行楽の一つでありました。そこからほど近いところにあるのが東覚寺（弁財天）。門を入ってすぐ右側に弁財天を祀る小さなお堂があります。江戸時代は当寺の不動尊が有名でした。次に向かったのが明治通りを渡った所にある大きなお社を誇る香取神社（恵比寿神・大黒神）。創建は天智天皇の4年（665年）と江東区内では最も古い神社です。平将門の乱のとき、俵藤太秀郷が当社に戦勝を祈り、祈願成就の後、弓矢を奉納したといわれています。

続いて一行は疲れも見せず、普門院（毘沙門天）にお参りしてから、天祖神社（福禄寿）に到着しました。天正年間（1573～1593年）悪病が大流行したとき、織田信長がこの神社で流鏑馬の行事を行わせた

ところ、たちまちに収まったので、以来病気を治す神社として有名になりました。そして最後は龍眼寺（布袋孫）です。境内に一歩入るとその整備された庭に目を奪われるほどです。歴代の住職が萩を増殖したので当寺は萩寺と言われていて、中秋のころは遊覧の人が多く集う江戸の名所の一つとなりました。その後番外ながら亀戸の名所亀戸天神社に立ち寄りました。学問の神様として受験シーズンには多くの受験生が祈願に訪れています。

今年も無事に七福神めぐりが終わり、皆さん一年間無事に過ごせますように祈念しています。

（佐久間征二）

■第93回　江戸にのこる水運の歴史

（4月26日　参加者35名）

江東区を流れる小名木川は、東へまっすぐのびて旧中川につながっており、その接点に「中川船番所資料館」があります。この場所は江戸時代を通じて江戸の東方における水上交通の要所で関所が設けられていました。鉄道・自動車による陸上交通に慣れている現代からは想像もできませんが、当時は河川をたくみにつないで、江戸という百万都市に船運により物資が運び込まれ人の移動が行われていたのです。

中川船番所資料館にて

先ず寄ったのが中川船番所資料館です。番所では小名木川のそばに番小屋が建てられ、川を通行する船を見張っていました。主に夜間の通船、女性の通行、武器・武具の取り締まり、舟で運ばれる荷物を検査していました。

中川番所が置かれた場所は、中川と番所の手前を流れる小名木川、そして行徳へとつながる船堀川が交差する地で、利根川や江戸川などの河川を通じて江戸と関東を結ぶ重要な場所でした。館内では番所の再現ジオラマをはじめ、江戸時代から近代まで水上交通の歴史を伝える資料などを展示しています。

資料館の隣にあるのが川の駅です。水陸両用バスの停留所にあたるところです。運が良くバスが到着していて、勢いよく陸から川へ戻る姿を見ることができました。物珍しさもあってラッキーといったところです。

次に向かったのが「荒川ロックゲート」で、平成17年にできた水門です。荒川と旧中川の水位差が最大で3・1メートルほどあり、その差を調整する施設です。

仕組みはちょうどパナマ運河を想像していただければ分り易いと思います。一行が到着したのに合わせるかのように船が運河の中に到着していて、両方の門の開閉により水の高さを調整している様を実際に見学することができました。ここは船による物資運搬等、災害時にも活躍しているそうです。今回は江戸時代の水運の歴史や、物資の運搬、人々の暮らし等を勉強することができた一日でした。

（佐久間征二）

園芸クラブ

■紅葉期の新宿御苑散策

（12月1日　参加者11名）

昨年菊花展開催中に訪れた新宿御苑で、今回は紅葉を楽しむ散策をいたしました。園内に風景式庭園、整形式庭園、日本庭園と異なる三つの庭園が巧みにデザインされた約十八万坪の広さがある庭なので、移動時間距離を少なくし、なるべく多くを鑑賞できるようボランティアによるいくつかのガイドコースから「紅葉コース」を選択しガイドを依頼しました。

散策開始前にガイドの方より多種類のモミジの葉を見せながらの紅葉樹と紅葉の形の特徴・色彩の違いの説明がありました。園内にはイロハモミジ、オオモミジなどのモミジの紅葉樹、タムケヤマなどのカエデの紅葉樹、イチョウ、カツラ、ポプラなどの黄葉樹が三十種類以上あり、綺麗に色づいて陽光に映えていました。

モミジとは紅葉する木の総称で、なかでも楓（かえで）が見事に紅葉するところから、楓の異称として言われています。園芸界ではイロハモミジ、オオモミジ、ハウチワカエデなどイロハモミジ系のものをモミジといい、それ以外のイタヤカエデ、ウリハダカエデなどをカエデとして区分する習慣があるそうです。手向山（タムケヤマ）はカエデの改良種で最も多く植えられているそうです。

終日好天で、十二月の東京では二十五年ぶりの高気温十七度、快適な時間を過ごしました。**（星洋一）**

鎌倉探訪

■第129回鎌倉探訪

（2月5日　参加20名）

今回は「しだれ梅の常立寺」と「早春の江の島めぐり」がテーマ。

常立寺は、モノレール湘南江の島駅の裏手。元寇の際、降伏勧告の使者で当地にて斬首された、杜世忠の供養碑が立つ寺だ。横綱白鵬をはじめモンゴル出身力士が詣でに来る。境内には梅の古木が多く、しだれ梅の大木もあるが残念ながら未だ蕾で、梅見は出来なかった。

洲鼻通りを一路江の島へ。弁天橋は来年のオリンピックに向け拡幅工事中。青銅の鳥居を潜り、朱の鳥居を抜け、端心門を見上げながら我々は江の島エスカーへ。江の島は案外上り下りの階段がきつく、島めぐりには此のエスカレーターが便利だ。

島には三つの杜がある。海の守護神である三女神がそれぞれ祀られている（辺津宮・中津宮・奥津宮）。創建は平安時代から鎌倉時代に亘り何度か再建もされ、今日に至っているが、いずれも権現造りや入母屋造りの華麗な杜である。時代を超えて、時の権力者たちが建立、崇拝してきた証だ。また、江戸時代からは、庶民の信仰の対象としても、頗る人気を誇ってきた。宮島、竹生島と並び三弁財天の一つとして、歌舞伎他の芸事の守り神となっている。

島の頂上にサミュエル・コッキング苑がある。明治の貿易商の屋敷と温室の跡地だ。今は植物園と展望灯台（シーキャンドル）になっている。冬咲きのチューリップが目についた。灯台に上ると、海抜百メートルからの眺めは抜群で、大島、天城、箱根や東京、房総が視界に拡がるが、富士山が雲隠れなのが残念。しかし、湘南の潮風に春の息吹を感じた一日でした。**（加藤文男）**

■第130回鎌倉探訪

（4月3日　参加者21名）

今回のテーマは、「鎌倉で坂東札所巡りと平成最後の満開桜観賞」

雲一つない鎌倉晴れの空の下、行楽で渋滞の若宮大路を、バスは杉本寺へ向かう。坂東三十三観音霊場の一番札所だ。

此処は奈良時代創建の鎌倉最古の寺。3人の名僧（行基・慈覚大師・恵心僧都）作の三体の観音像が本尊。茅葺の本堂が古色蒼然とし、「十一面杉本観音」と書かれた旗の白さが目立つ。頼朝の観音信仰の篤さを受け、実朝の時代に坂東三十三観音零場が出来たとされている。立入禁止の石段が、歴史の古さを偲ばせる様に、厚い苔に覆われていた。

バスで鎌倉逗子ハイランドへ。住宅街の端に絶景ポイントが有る。並木の桜に飾られる如く富士山が正面に見える。白雪が眩しく輝いている。鎌倉から見る桜と富士。得も言われぬとはこの事だろう。一同うっとり顔で絶景を眺めている。

ハイランドを下り妙光寺へ。土中から日蓮上人の像が出てきた場所に、室町時代に建ったのが当寺。境内の桜が満開で妍を競っている。此処で昼食を取り最後の訪問地へ。

岩殿寺は三十三観音霊場の二番札所だ。当寺も行基が十一面観音の石像を彫ったと伝わっている。頼朝の信仰も篤く、吾妻鏡にも政子と共に参詣した事が記されている。更に下って、明治の文豪泉鏡花も寺を屡々訪れ、境内に池を寄進している。

仄かな桜の香りを、万朶の花の下で感じながら、春うららの札所巡りを終えた。坂東三十三観音霊場の一番と二番のわずか二か所の巡礼であったが、観音様の功徳か、天気に恵まれ平成最後の満開桜を無事見納め出来ました。合掌。**（加藤文男）**

カラオケ会Ⅰ

隔月奇数月第3土曜日午後1時から5時迄一人5曲をリクエストカードに書き、提出し、順番に歌います。開催場所は銀座7丁目クラブクレシェンドです

（日高三誠）

四季の会

■食べる工芸品「お干菓子作り」

アートフォーラムあざみ野

（6月4日）

（参加者男性5名　女性16名）

日頃は「お干菓子」なんて縁遠い方が多いと思いますが、「たまには別世界の経験をしてみましょう！」の呼びかけで、男性5名の参加があり、異色のイベントになりました。

お干菓子の材料は上質の砂糖「和三盆」と吉野葛。吉野葛を紅や青の色粉を加えた水で軽く捏ね、和三盆に少しずつ入れながらざるで濾す。この作業を何回も滑らかになるまで繰り返すと、うすく色づいた生地が出来上がり。これを指導して下さるのは松村美佐緒先生。埼玉県清瀬で「かしの座」工房を主宰。和菓子・洋菓子作りの体験会や縮緬細工の制作指導を手掛けたり、和服にピンクの割烹着がお似合いの美しい先生でした。

淡いピンクやブルーが程よく練り合わされた生地ができると、木型にそれを詰め込みます。ここがコツで、しっかりと押し込まないと後で形が崩れます。それまで後ろで見物していた男性の出番です。力強くきちっと押し込んでくれて頼もしかったです。最後の作業は木型を軽く叩き、形を崩さないように裏返して終了。桜・竹・梅・松・菊など見た目も上品なお干菓子の出来上がりです。「素敵！」の歓声があちこちのテーブルから上がりました。

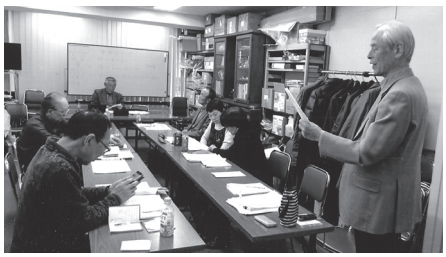
材料も製法もシンプル、見た目も楽しい四季感があり、日持ちも良いなどなど日本の伝統を大切にした「お干菓子」。リーダー大里さんと関さんのお心づくしの「お抹茶」をいただきながら、上品で楽しい〝和〟の1日でした。

（豊田和子）

詩吟会

早いもので発足後6年目を迎えました。

写真はある日の練習会風景です（毎月第4木曜日午後）。はじめの頃は緊張の連続でしたが、この頃は堂々と声が出る（吼える）ようになりました。漢詩のもつ味の幅広さ、奥深さとともに最近は吟題のレパートリーも広がってきました。練習会のアクセントとして年初早々の「初吟会」そして発足時記念の「温習会」（8月おさらい会）がわれわれの集大成となります。前半期に集中している外部吟詠大会やコンクールへの参加も定例化してきました。



練習風景

発足6年にして最長老のKさんが準師範昇段となったことは特筆できます。またこの4月から若々しい（といっても60代後半）新入会員を迎えたこともうれしい限りです。この6月からは大会やコンクールの最盛期でもあり、月1回の練習会のほか任意参加の臨時練習会も定着してきました。

薄井是道先生のご厚意で今年から新入会員専用のコースを開設することになりましたので、どなたでもご参加をお待ちしています。

（芝山　茂）

自然を楽しむ会

■第66回　舞岡公園

（4月18日 参加者29名）

JR戸塚駅に集合。江ノ電バス15分で京急ニュータウン、下車。歩いてすぐ舞岡公園に入園。ここは谷戸の風情を完全に保存している公園（横浜市立）で、面積28万㎡と広く、周囲に小丘が連なり内側は水流や池が点在する平坦地で、変化に富んだ地形をなしています。

駐車場脇の南口から中央部に向かって美しい新緑の小道を歩き、1時間ほどで茅葺屋根の農家や鯉幟がはためく広い庭や資料館もある「小谷戸の里」に着き、ゆっくり昼食休憩しました。

午後は北の「瓜久保の家」方向へ水田脇の道を歩き、右へ回って小川にそって南へ進み、「さくらなみ池」・「もみじ休憩所」経由、帰りのバス停に午後3時に着きました。

戸塚駅前で一旦解散後、お帰りの2名を除く27名の大勢が駅前のカプリチョーザでの懇親会に参加、賑やかなひと時をたのしみました。

この日は手作りミニ雑草図鑑の第30冊目（田んぼ・沼地の雑草＃3）を配布しました。

■第67回　林試の森公園

（5月16日 参加者21名）

東急目黒線「武蔵小山駅」に10時30分集合。小山台高校脇を通り約15分歩いて南門から入園しました。一旦南縁に沿って西門へと進んでからは、東へ東へとジグザグに巡り、ジャブジャブ池付近の広場で1時間の昼食休憩です。午後はさらに東へと渦巻状に歩き、小休憩ののち、東門から公園を出ます。そのあとも路地裏を約20分不動前駅まで歩き、解散（15時頃）。

この公園は１００年以上前に始まった林業試験場の跡地です。林試が１９７８年つくばに移転し、その樹木がそっくり残って都立公園になり、目黒駅を挟んだ対称地にある自然教育園同様、古木巨木の多い静かな森林の風情に浴せる貴重な緑地です。高低差はほとんどないコースで、ゆっくり歩きを心がけて、新緑の心地よさを楽しみました。

不動前駅で解散後、近くのジョナサンにて14名が参加して暫しの懇親会を行ないました。

野草を覚え親しんで貰うため毎回参加者に配布しているミニ雑草図鑑も今回は第31冊目。

キャップと使用済み切手の持寄りがあり、今回キャップの回収量は1・1kgでした（前回は2・0kg）

（店網俊夫）

水墨画教室

■第42回東邦書画公募展（4月18日～4月24日）水墨画部門に出品参加。

会場はいつもの東京都美術館二階第二展示室です。書道と水墨画の作品展であり、各部屋毎に書と絵がコラボに展示され、しかも墨一色の部屋は落着きと重厚な雰囲気を醸し出していました。水墨画は48点の展示が有り我が教室からは、5作品出品し、2作品が入賞致しました。

特別顧問賞　須釜汀水
荒磯（50号）

東邦院賞　菊池功水
レマン湖（30号）

受賞作品2点ならびに講師飛田硯水先生の特別出品作　牧野候薬医門（100号）を掲載させていただきます。

■日本水墨院令和元年度研修旅行に参加（5月16日）

茨城県北五浦天心記念五浦美術館、大観荘、六角堂、野口雨情記念館他、大型バス一台、参加者総勢46名、この日帰りバスの旅に日退協水墨会、常陽水墨会（共に飛田先生主宰）より9名が参加、昼食懇談は五浦観光ホテル別館大観荘にて行い好天に恵まれた食後の五浦海岸のまばゆい光、六角堂への散策は心なごむ研修の旅となりました。

（須釜栄作）

特別顧問賞・須釜汀水
「荒磯」（50号）

東邦院賞・菊池功水
「レマン湖」（30号）

特別出品・飛田硯水先生・
牧野候薬医門（100号）

竹とんぼ同好会

■アンチエイジング竹とんぼ同好会

時期到来かもしれません。協会のＨＰのお陰で私たちの同好会に新しい血が流れ始めました。前号では網走からのアプローチを紹介いたしましたが、これは必ずしも一過性でないことを痛感し想定外の展開に大喜びをしています。昨年末から静岡県富士宮市在住の同好の士が月例の同好会に参加頂いており、時には自作の竹材のおもちゃを持参いただいたりして新しい刺激も受けています。

更に、今般は「大分県で木工所を営んでいる者です。検索で御協会を知りました。用件は今の子供たちが簡単に飛ばせる竹とんぼを普及させるためにご提案する次第です」というメールと共に竹とんぼセットが送られてきました。被覆線で作られた発射機と専用の竹とんぼの羽根が数セット入っていて、使ってみると、簡単に思った方向に（従って怪我の心配が無く）一度に何枚もの羽根を飛ばせる優れものと判明しました。

私たちのところには大阪市の学校

で小学生の課外活動を担当されている方から「ネットで竹とんぼ同好会を知り、子供たちのために毎月の課題の使用と指導をお願いいたします」という反応もあり、この竹とんぼセットの紹介もしたいと思っています。HP原稿作成のモチベーションアップと責任を一層感じます。

さて、竹とんぼ同好会も来年四月第百回を迎えようとしています。適当にメンバーの新陳代謝を引き続き図りつつ頭脳、手先、口先をフル回転させながら月一回の例会は講師のサポートで充実感を満喫し続けたいと思います。（協会HP参照）

（富川　正）

男声合唱クラブ

練習は月2～3回、木曜日18時15分～20時30分、練習場所は新宿区戸塚地域センター（高田馬場）です。基本は四部合唱で、特にバリトンパートの人材を求めていますが、どなたでもハーモニーを楽しみに参加しませんか。

■今年の活動実績

2月16日　みんなでわ～っと歌おう会　於：音楽ビアプラザライオン（銀座）

3月17日　春呼び祭（陸前高田市グローバルキャンパス）に参加

5月19日　小平市春の合唱祭　曲目「Ombra mai fu、めざめ、ネスカフェCM、この木なんの木＝日立CM、喝采」於：ルネこだいら（小平市民文化会館）

■今後の主な活動予定

10月4日　ホテルロビーコンサート　曲目「早春賦」於：音楽ビアプラザライオン（銀座）

フェローチェを指揮する伴さん

10曲程度　於：ホテルグリーンプラザ箱根

11月17日　小平市秋の合唱祭　3～4曲　於：ルネこだいら（小平市民文化会館）

2020年

4月19日　西武沿線男声合唱団交歓演奏会（4、5団参加）

5月31日　小平市春の合唱祭

10又は11月予定　フェローチェ発団10周年記念コンサート

（関谷一郎　日向直規）

築地海鮮丼川柳会

毎月、第二土曜日の午後、協会談話室において、川柳会を開催しております。

講師は、津田暹全日本川柳協会理事で、川柳指導において、わかり易い指導をして頂けることで、定評のある先生です。

毎月、講師から出された課題について、一人三句を提出し、講師の選と講評がおこなわれます。

最近の課題「我慢」についての会員句は次の通りです。

公僕はじっと我慢で出世する　あさじ

風雪に耐えた避難所八年目　一星

金婚の夫婦我慢を胸に秘め　和子

空腹で育ち老いてもダイエット　南穂子

仏ではないから二度で腹が立つ　ひま人

千年を邪鬼は四天の足の下　弘

我慢のメンタル世界一位の花咲かす　弘純

沖縄にいつまで強いる軍事基地　瑞男

この後、講師から虫食い川柳が出されます。空欄となっているところに、何れも二音で一字の漢字を入れて、当てっこするものですが、中々四問正解とならず、会員は四苦八苦します。

一、惜しまれて□もさくらも梅も散る

二、□が来たまた人間を続けよう

三、遠からず猫一匹も□を出る

四、□の入口でイヤリングを落とす

どうぞ、皆様もチャレンジしてみて下さい。（答えは次ページの末尾にあります）。

川柳は感じたことを五七五で表現すればよく、俳句のように季語はありません。どなたでも気軽に出来ますので、どうぞ一度見学にいらして下さい。見学は予約はいりません。第二土曜日の午後一時半までに、協

会談話室に、おいで下さい。

（稲葉あさじ）

デジカメクラブ

デジカメクラブの平成31年度前半のイベントとして平成31年3月29日（金）東京の隅田公園で「お花見の撮影会」を開催しました。

隅田公園の桜は、江戸時代に八代将軍・徳川吉宗公が桜を植えたのが始まりで、日本さくら名所百選に選定されています。当日はあいにく曇り空であったが桜は満開で隅田川と東京スカイツリーそして吾妻橋や言問橋との風景を各自思い思いの場所で撮影を楽しみました。その後公園近くのお蕎麦屋さんでお昼の会食と団欒をしてお別れとなりました。楽しい一日でした。

4月のデジカメクラブの例会では、隅田公園で各自が撮影した写真を協会のパソコンを使って披露、意見の交換などして撮影技術の向上に努めました。また年の初めの平成31年1月22日にはパソコンクラブと合同で恒例の新年会を開催、パソコンクラブとの交流を深めました。

デジカメメクラブでの最近の話題は、デジカメについての「画素数と解像力」についての解説や私のカメラ遍歴などでした

デジカメクラブでは、今年1月から新会員が1名入会しました。楽しいクラブです。ぜひご参加ください。

毎月第一水曜日午後1時半開催です。

（鈴木新太郎）

歴史を考える会

■第176回　日本の古代（1月28日）

第6巻　古墳時代Ⅱ

講師・髙川　博

古墳時代の中期から鉄製の甲（よろい）冑（かぶと）が様式を様々に変えながら盛行する。しかし、後期になると乗馬が普及し。それに伴って動きやすい桂甲（けいこう）に変わっていった。

馬具は古墳時代中期に朝鮮半島から伝わり、中期末から後期には急速に普及する。和歌山県の大谷古墳、埼玉県の将軍山古墳、福岡県の船原（ふなばる）古墳からは馬冑（ばちゅう）が出土して、騎馬文化の普及の一端を示している。

■第177回　読書検討会①（2月25日）

「玄界灘から見る古代日本」梓書院

著者・髙川　博

フリーディスカッション

・四周が海の日本列島では海のメカニズム（潮汐流と海流）の理解は欠かせない。

・中でも玄界灘（対馬海峡）の渡海は対外交流の上で大変重要な意味を持っていた。

・ヤマト王権と九州諸勢力の関係は時代により変遷し、複雑であり一筋縄で捉えることは難しい。

・馬をどのようにして運び入れたか、は著者の仮説を含めて大きな課題を投げかけている。

■第180回　日本の古代（5月27日）

第8巻　出雲・吉備の地域学

講師　髙川　博

日本列島の中心部は弥生時代の九州北部から古墳時代には畿内・大和に移動したことが考古学の知見から読み取れる。この2地点間を結ぶ航海ルート上にあって、重要な地域が出雲と吉備である。出雲は単に神話の世界だけではなく、近年弥生時代後期の大量の青銅器（銅剣・銅矛・銅鐸）が発掘されて、大幅な見直しがされている。吉備地方も瀬戸内の海上ルート拠点として、重要な遺跡が数多く見られ、中でもヤマト王権成立に関与したと考えられる特殊器台、特殊壺は注目に値する。

築地海鮮丼川柳会
「虫食い川柳の答え」
一、人　二、朝　三、村　四、冬

第20回　個人親睦会

「はつらつふれあいの集い」

年に一度の会員交歓会日程が左記のとおり決定しました。一人でも多くの会員の皆さまやお知り合いの方々にご参集いただき、会を盛り上げて頂けるようご案内申し上げます。詳細は追ってご通知いたしますので、取り敢えずご予定下さい。

記

日時：2019年11月7日（木）

場所：ホテルラングウッド

東京都荒川区日暮里5-50-5

（電話）03-3803-1234

首都圏だより

神奈川会

■第61回イベント　横浜の「海外交流活動」の足跡を訪ねて

（3月15日　参加者32名）

穏やかな好天に恵まれて、参加者全員が定刻前に集合し出足好調。今回は参加者を3班に分けて、行動の円滑化を図りました。

出発後、MM21のビル群の景観を運河沿いに見ながら汽車道を経由してJICA・海外移住資料館に到着。3名のボランティアガイドの案内でハワイ、北米、中南米諸国で大変な苦労をされた移住者の足跡と活躍を垣間見ました。入植各国では日本人の能力と勤勉さが高く評価されているとのことで、同胞として誇りを感じました。見学後、JICAビル3階のレストラン「ポートテラス・カフェ」でリーズナブルな各国のお国自慢料理を堪能し、レンガ倉庫をはじめとする窓外の絶景を眺めながらの歓談を楽しみました。

続いて、「神奈川県立歴史博物館」に移動。古代から現代に至る神奈川の生活、文化、美術、工芸品、武具など大陸文化との交流の様子や近代における西洋文明の影響などが理解しやすく展示されていました。また博物館所蔵の、主として狩野派による「屏風絵」が数多く特別展示されていて、目を楽しませてくれました。

最後に、「横浜市開港記念会館」を3名のガイドの案内で見学しました。大正6年に本邦初の公会堂として開館したこの建築物は、当時の最新の設計・技術と最高の資材を投入した傑作で、「ジャックの塔」として親しまれてきました。メイン施設の講堂は珍しい劇場風に設計され、今でも各種イベントで使われています。また、4枚あるステンドグラスはいずれも会館自慢の逸品ですが、特に貴賓用の階段を飾っている「ペリー来航の図」には星条旗が描かれているため、戦後米軍に接収され映画館として使用されていた時も大切に扱われていたそうです。その他、歴史を物語る3枚の大きな壁画、貴重な建築資材などの展示、公会堂らしく大小9部屋もある会議室等を見学して一同感心しきり。

横浜の「海外移住活動」の足跡を訪ねて

知的好奇心を満たし、心地良い疲労を感じた1日が終り、午後4時過ぎ無事解散しました。（飯田吉辰）

■第62回イベント　「新横浜ラーメン博物館」での昼食と「崎陽軒横浜工場」の見学

（5月24日　参加者42名）

当日はまだ5月と云うのに真夏日、大変暑い日でしたが42名の参加者がありました。

まず新横浜駅より徒歩10分の「新横浜ラーメン博物館」を訪れました。博物館は昭和30年代の夕焼けの下町風景の中に北海道から沖縄のラーメン店6軒、海外から2軒の店が出店しています。各自自由に好みのラーメンを見つけ舌づつみ、食後はラーメンの歴史に触れその世界を楽しみました。次に訪れたのは横浜で生まれ110年の歴史のある「シウマイの崎陽軒横浜工場」です。新横浜からバスで10分ほどで工場に着きます。3班に分かれ製造工程の映像を見、ガラス越しに原料を混ぜる所から私達が知っている「焼売」の

崎陽軒にて

形になり、蒸されてベルトコンベアーで運ばれ移載ロボットが15個ずつ持ち上げ箱詰され冷めても美味しい焼売が完成する所を見学しました。又、「シウマイ弁当」が出来上る過程も見学する事も出来ました。焼売や人気の筍煮、他のおかずの詰め合せ、包装紙の紐掛け弁当の完成を手作業でされているのには驚かされました。「駅弁」の歴史冷めても美味しいシウマイの秘密を聞き最後はお楽しみの試食タイムです。作りたてのシウマイや筍煮は流石に美味しく満足しました。最後に売店で夕食の「シウマイ弁当」を家への土産に買い、熱中症になる方もなく元気で各自楽しい思い出を胸に家路に着きました。

（樋高三恵子）

京葉会

■第14回京葉会サロン

（1月9日　参加者21名）

京葉会サロンも今年で3年目を迎えることになりました。これも皆様のご支援・ご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。年の初めは日枝神社のお参りから始まりました。ここは家内安全、病気平癒、出世運等にご利益があることで知られていて、近年は縁結びのパワースポットとしても若い女性を中心に人気が出てきているようです。皆さん拝殿前に進んで神妙にお参りをしていました。お参り後、八丁堀の定例会場に戻って新年会の始まりです。最初に吉川さんから人生百五十年時代のお話がありました。これから人生百年時代が到着すると言われ、そのくらいまで生きることを前提に生活設計をした方が良いという話もあるようです。ところがその上をいく百五十年時代が到来するという話ですから、正直言って信じがたいという気持ちにもなりました。医学等の進歩によりいずれそういう時代がくるかもしれませんね。とにかく寝たきりで長生きしても意味がありませんので、健康で楽しく長生きするのが理想ではないでしょうか。

日枝神社の初詣

テーブルの上には今日の為に、豪華な料理や、地方の銘酒、ビール等が並び、お待ちかねの新年会が始まりました。宴もたけなわとなったところで、会員で歌手の田口文恵さんから新曲のご披露がありました。やはりプロは違うなと皆さん納得。そして最後に恒例となりました全員の一言スピーチです。新年を迎えるにあたり、今年の抱負を中心に語って頂きましたが、人生経験豊富な方ばかりですから、大変貴重なお話をお伺いして大変参考になりました。京葉会サロンは毎月第2水曜日に八丁堀の定例会場で開催しています。皆様のご参加をお待ちしています。

（佐久間征二）

■第29回イベント

春本番の東京ベイエリアめぐり

（3月29日　参加者27名）

今回は日退協の会員で、中央区のガイドとして活躍中の椿本祐弘氏の案内で、２０２０年開催の東京オリンピックで何かと話題の晴海地区を見学しました。集合地点にある晴海埠頭ターミナルの展望台は、レインボーブリッジや東京ベイエリアが目の前に広がり、３６５度のパノラマが楽しめるところです。今日は平日でもあり訪れる人もまばらでしたが、休日には家族連れや恋人同士で賑わっているとのことでした。更にこの夜景は神秘的で異次元の世界にいるようだと評判で、一度見学されることをお薦めします。

近くでは選手村の建設が着々と進んでいました。オリンピックが終了すると高級マンションとして分譲される予定で、一万二千人もの人口が見込まれています。それにしてもこの盛観さは今しか観られないもので大変貴重な体験をすることができました。昭和の時代には晴海といえば東京国際見本市会場があったところとして知られていました。年間六百万人を超える来場者で賑わいましたが、平成八年に江東区有明に東京ビッグサイトが開場したのを機に幕を閉じました。今は記念碑が残っているだけです。

後半は晴海アイランドトリトンスクエアの見学です。ここは平成十三

年にオープンした店舗とオフイスと住居が一緒になった都市型複合商業施設で、就業人口二万人、居住人口五千人を数えています。ちょうどこの日は川べりで桜祭りが始まっていて、屋台も出ていましたが、まだ開花したばかりと、季節外れの寒さで人影も少ないように感じました。中庭には公園のような憩いの空間があり、季節の花が咲き乱れていて、家族連れには手近で安く楽しめるスポットとして人気があるようです。

晴海地区には将来的に人口の増加が確実なため、今一番の課題は交通問題です。折しもテレビで東京都が銀座から晴海を経由して有明の東京ビッグサイトまで地下鉄を通す計画があると報じていました。

今回のイベントで、普段なかなか訪れる機会がない場所を見学できたことに感謝しています。

（佐久間征二）

埼玉会

■恒例の「初詣」と「新年会」

（1月11日　参加者22名）

川越の地名は、鎌倉時代にこの地を治めた武士・河越氏に由来し、河越重頼の娘が源義経の正室になるなど幕府の御家人として権勢を誇りました。その後、この地を本拠とした上杉氏家臣の太田道真・道灌父子が河越城を築き、城下町が形成されて行きました。

江戸時代には川越藩となり、江戸の北の護りとして重視されて、藩主には有力大名が配置されました。寛永15年（１９６８年）の大火後、藩主となった松平信綱により、隅田川支流である新河岸川の舟運と城下町が整備されました。地元の特産品が江戸へ運ばれ、帰りの舟で江戸からは最新の文化が持ち帰られ、商人の町川越は小江戸と呼ばれて幕末まで賑わいました。

新年会

明治26年の大火で中心街の大部分が焼失し、川越の商人たちは、耐久性・耐火性に優れた蔵造りを用いて街を再建しました。今も残る蔵造りの街並みは、当時の商家の名残りであり、江戸の情緒を今に伝える小江戸川越の観光名所となっています。

地元大野さんが用意した資料や解説で、喜多院・本丸御殿・氷川神社・菓子屋横丁・おびんづるさまで名高い蓮馨寺など、川越の見どころを満喫しました。丸々三時間歩いたお陰で、坂戸に席を移して平松さんの段取りによる「安兵衛」での新年会では、冷えたビールが極上の味わいでした。

氷川神社で亥年の参加者による集合写真では、22名中8名が亥年と知れて、驚きでした。**（成井 正浩）**

■第42回「鋳物のまち川口・辻井製作所見学記」

（2月19日　参加者32名）

この日川口市でも有数の企業である辻井製作所の見学会が行われました。

鋳物のまち川口の勃興は、諸説ありますが、荒川から採取される良質の砂と製品の消費地江戸への水運に恵まれていたことが、主たる要因であると言われています。

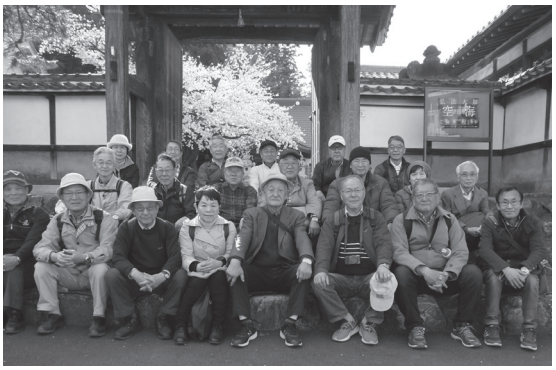
川口に生まれ育った筆者ですが、鋳物との関わりは殆どなく、学童期に何度か作業現場を見たことがある程度のものでした。当時は朝鮮戦争による特需により鋳物業も盛況を極めていました。工員さん達は、いわゆる３Ｋ（きつい、きたない、きけん）の中で真っ黒になりながら、手作業に励んでいました。

辻井製作所の創業は大正中期で、第２次大戦末期には株式会社辻井鋳工場となり、以降発展を続け現在に

辻井製作所にて

至っています。所在地の現状は、周辺の市街地化の進展により住宅や商業施設に囲まれる状態となってしまっています。時代の推移に伴い、ベトナム国営工場との技術提携も進められ、26人のベトナム人労働者が就労しています。

鋳物製造の面では、かつての熟練職人の手から大幅に最新のＩＴ技術の採用へと移行し、原材料の調合をはじめ工程の自動化が図られています。一方では、型込めのためには砂を扱い、１４７０度に及ぶ溶鉄を鋳型に注ぎ、凝固した半製品の研磨等を行う作業では、ゴーグル、マスク等の防具の使用は不可欠で、未だ３Ｋからの離脱は難しそうです。


越生観桜会

工場の正門付近には、出荷を待つ彩色された重量２トンを超す大型建機用部品、重電機用部品等が並んでいて、これらの製品が我が国の重機械産業を底辺から支えていることを実感しました。加えて鋳物川口の更なる発展を念じたところでもありました。

見学会の終了時には、辻井社長自らのご挨拶とお見送りもいただきました。

散会後、川口駅付近の中華料理店「福縁」に於いて、他の地域会の方々を含む25名にて懇親会で盛り上がりました。（白根 淳一郎）

■第43回　越生「さくら山公園」観桜会

（４月４日　参加者23名）

青空に恵まれた良き日に、越生「さくらの山公園」における観桜会が開かれた。太田道灌ゆかりの地、大観山の裾野部分の東斜面に植樹された300本近くのソメイヨシノが満開で我々を迎えてくれた。花より団子の感の観桜会を終えて、新緑のオゾンを吸いながら散策、正法寺（大黒天）の山門をくぐり、振り返るとそこには「山岡鉄舟」による素晴らしい書の文字が在った。次は慶応２年武州一揆による多数傷痕の残る築160年の渋沢栄一が泊まったと記録されている「金子家」を見学。辺り一帯の当時を思わせる同様の家屋は３～４軒残るのみ。最後に法恩寺（恵比寿天）にて、ご朱印を頂戴して帰路に着いた。

有志15名は、坂戸駅近くの割烹料理店「安兵衛」において、花見の余韻を残す春の宴を設けました。（倉片 厚子）

西東京会

■「料理教室と食生活の話」

（２月５日　参加者18名）

西東京会主催の第２回「料理教室」が武蔵野市市民会館の調理室において開催され、参加者は男性13名、女性５名の計18名でした。

今回も管理栄養士で専門調理師の小島カエ先生にご指導いただきました。

献立は①牡蠣の炊込みご飯②エビと蓮根のつくね、おろし大根添え③ひじきの煮物④粕汁と懐かしい栄養満点の和食料理に真剣な面持ちで取り組みました。18名が３台の調理台に分かれて、洗い物、包丁さばき、調味料の塩梅、火力の調整、盛り付け等々、慣れた手つきと不慣れな手つきが上手く噛み合って90分程で予定通り全て無事出来上がりました。

先生から少しお世辞を込めたお褒めの言葉もありました。

出来立てで湯気が立ち、良い香りのする料理にみんな舌鼓を打ち大満足でした。

ご飯のお替わりも進み、美味しい出来栄えにみんな自画自賛。粕汁では物足りないのか、誰からともなく一杯欲しいくらいだねーと声が上がっておりました。

後片付けしたあと、小島先生から「食生活と健康について」の卓話が

料理教室の風景

あり皆さん熱心にメモを取り乍ら聴き入っていました。メニューを考え、食材を考え、予算に合わせ買い出しをし、手際よく料理を作ることは頭の体操になり認知症予防にも効果があります。今回の料理教室では日々バランスの取れた規則正しい食生活が如何に大切であるかを学びました。

あとは実行あるのみです。

（安藤隆夫）

■「西東京懇親ゴルフ会」優勝者の弁

（3月26日　参加者18名）

齢80歳。この齢になって「優勝者の弁」という執筆依頼が来るとは思ってもいなかった。

第11回西東京主催の懇親ゴルフ会は、平成最後のゴルフ会となった。当日の狭山ゴルフ倶楽部は朝方やや花冷え午後暖かく、老木の桜も満開でメンバーと談笑しながらのラウンドが印象深く楽しい終日を過ごすことができた。

自分のゴルフスタイルは、ボール任せのタラればゴルフが信条で西行の歌「風誘う花の行方は知らずとも、惜しむ心は身にとまりけり」の心境と合致している。当日は五時起床。

自宅からコースまで走行距離は

西東京懇親ゴルフ会

131キロ、万歩計歩数は2万8千歩である。昨年5月には緊急搬送され心筋梗塞のオペを受け入院。体調万全ではなく、最近はラウンド出来るのは残りの人生で何回かと指折り数える始末。この度は、優勝よりも貰った二つのニヤピン賞が、「不老長寿の妙薬」の効能を感じて殊の外嬉しい。皆様へ、感謝多謝。

（宮本佳彦）

■第43回イベント

「ヤクルト本社中央研究所（代田記念館）の見学と国立の桜鑑賞」

（4月1日　参加者18名）

今年の桜開花は全国で東京都が一番早く、当日はほぼ満開で見頃であったが若干花冷えのする一日であった。ヤクルト側の意向で、参加者は先着順20名で募集した結果、希望者が20名を超えたため、西東京会の世話人3名はヤクルト研究所見学を辞退して桜鑑賞から参加することになった。

JR南武線「矢川駅」に13時に集合した18名（当日急に2名キャンセル）は、小雨の中徒歩でヤクルトへ出発。途中古民家（旧柳沢家）で見学がてら小休止したのち、ヤクルト本社中央研究所に到着。この中央研究所は特徴的な円形のビルで、中央

ヤクルト本社中央研究所にて

道国立インターを利用した事がある方なら、おそらく一度は目にした事があると思います。

研究所の概略説明の後、「代田記念館」へ移動、ヤクルトの父と謳われた代田稔医学博士による「乳酸菌の強化培養」からヤクルト誕生までの歴史や、実際乳酸菌シロタ株を顕微鏡で観察する事もでき、興味深い時間を過ごすことができた。色々な話の中で特に印象に残ったのは、代田博士が病気を治す方ではなく、病気にならない方を選んだ〈代田イズム〉が、ヤクルトには脈々と流れているのを感じた。

研究所を後にした頃は雨もあがり、城山公園の散策路を歩き、谷保天満宮まで戻り途中参加の3名と合流、国立の満開の桜を堪能することができた。

その後、16名の参加を得て懇親会を実施、やや歩き疲れた身体には心地よく、大いに飲み、大いに盛り上がり、夜桜の下帰路についた一日であった。

（橋本隆夫）

夏に想う ～飛ばせなかった昭和の竹とんぼ～

神奈川会　末松　孝一

小学校6年生当時、大井川に掛かる木造の蓬莱橋をリヤカーで渡り牧之原台地の畑に薩摩芋や大根を採りに行った。父親自作のリヤカーは大井飛行場（大井海軍航空隊牧之原飛行場）からの飛行機タイヤを利用したもので重く頑丈なものだった。父は左手人差し指を無くしていたため徴兵検査に合格せず残念だと言っていたが、仮に戦場に出向き死を遂げていたら昭和21年11月に生を受けた私はこの世にはいない。

物心ついてから遊び道具といえば「父の道具箱」の玄能や鋸であった。ミシンの木製糸巻の両端を切り落とし、刻みを入れベベルギアを作り、手動空中ブランコを小学校6年生の夏休み工作の作品として提出、金賞を貰った。自分のおもちゃは自分で作るもの‼　と子ども心に宿した時代環境であった。

工業高校入学当日（昭和37年4月）
父母との写真はこの一枚きり
母が中学校制服にボタンを付替えて

小学校入学前年の夏、突然大きな爆音に驚き空を見上げると翼端がスパッと直線的な形状をした飛行機が低空飛行をしていた。「朝鮮戦争から帰還したアメリカの戦闘機だ、あのくらい高く飛ぶ竹とんぼを作れるよ」と父の一言。秋の刈入れ後のほっとした時、作ってくれたのは今で言う「スカイヤンマー」であった。発射機はリリアンの編み道具を活用したものだった。当時のリリアン道具は木製でスカイヤンマー発射機への改造は父にとっては造作も無いことだった。羽根は鉄板を緩やかに捻り曲げ、周りを番線でリング状にし、外周に重みを付けると同時に安全対策を施したものであった。びゅんーと飛び上がり刈入れの終わった田んぼのはるか向こうに落下、稲刈りが終わるのを待てと言った意味を理解した。「竹とんぼじゃなくて鉄とんぼじゃん！」そう言うと「指が一本無いだけで竹とんぼは飛ばせないんだ」ぼそっと返ってきた言葉が今も脳裏に刻まれている。母は昭和40年2月50歳で他界、父は翌年55歳で母を追った。

毎年お盆には妻の実家に帰省し、お墓の清掃をするのが恒例になっている。墓地の入り口の参道には戦争で亡くなった郷里の方々の墓石が並んでいる。ひときわ大きな墓石は妻の叔父を祀るもので、〝昭和12年支那事変に参戦、27歳で野戦病院にて戦死、即日上等兵に進級云々〟と苔むした墓石の裏面に刻まれている。行け行けどんどんの時代だったから墓石も立派なもの、戦況悪化に伴い戦死した多くの方々は遺骨も戻らず今日に至っている。立派な墓石であればある程虚しさを感じる。この叔父も平和な時代であれば戦闘機の代わりに竹とんぼを真夏の空に飛ばすことが出来たと想う。一時の間であるが竹とんぼを削りながら戦争の愚かしさを痛切に感じる。ボランティア活動でお会いする方々と父母の面影とが重なり、涙腺が緩むことしばしばとなった齢72歳の平成の夏は終わった。

広島支部長のバトンを受けて

広島支部・新支部長　谷口　博

平成４年に広島支部が設立され、支部長は初代梶田省三さん、２代上神圭二さん、３代牧康司さんと続き今回バトンを受けました。

広島支部は今年で27年目を迎えます。温故知新の教えを意識しながら、広島支部の活動を会員の皆様の協力を得て時代に合った運営を考えて行きます。

広島支部の基盤は事業・同好会の代表世話人を始め、その組織の世話人の献身的な活動で確立しています。

谷口　博・新支部長

会員交流の場の二木会が広島支部の活動の基盤です。広島支部の交流の場であり、事業や同好会の発表の場であり支部全体の活動が会員の皆様に分かり易く説明する場でもあります。

広島支部の活動は事業活動と同好会活動に分かれています。事業活動は会員の増加や、留学生との交流会やボランティアを中心とした10の事業委員会の活動があります。同好会活動は28の同好会で文化とアクティビティな同好会があり会員が安定して確保できており盛会です。

当面の広島支部の最大の課題は会員の拡大です。30年度は53人の入会者があり、退会者が65名でした。会員数は４４３人と家族会員２０３人の合計６４６人でした。

新入会員より退会者が多くこの２年で５２人の会員数減になっています。同好会活動も会員増加の会もありますが総じて減少傾向にあります。

会員の年齢が上昇傾向にあり退会者が増加はやむを得ないことではありますが、会員増強のため日退協広島支部の魅力的な活動を広く知っていただく活動が必要と思っています。

広域宣伝よりも日退協に入って良かったと思っておられる会員の皆さんの一人一人の人による宣伝をお願いします。

特に新しく加入された方からの口コミは大いに歓迎で重要と考えています。

次に会員交流の場としての二木会の活性化です。広島支部活動の原動力組織である世話人交流会で皆様の十分な論議を行い実践に努めてまいります。

皆様の協力を得て素晴らしい更に魅力的な広島支部になるよう研鑽をしてまいります。

公益社団法人 日本産業退職者協会 役員名簿（50音順）

（令和元年7月20日現在）

役員

会長　前田晃伸
副会長　髙島進一
副会長　畠山忠昭
理事長　湯藤哲
専務理事　吉川敏孝
専務理事　佐久間征二
専務理事　細江譲夫
常任理事　猪狩光也
常任理事　石井憲
常任理事　井上国春
常任理事　大里璋子
常任理事　倉片厚子
常任理事　塩山哲郎
常任理事（広島支部長）　谷口博
常任理事　長澤征次
常任理事　西村修
常任理事　福島龍郎
常任理事　藤崎大四郎
常任理事　山田雅彦
理事　石川義明
理事　伊藤春江
理事　大野英明
理事　菊池正美
理事　木村一雄
理事　遠間ひで子
理事事務局長　西村康治
理事　長嶋良一
監事　江口俊治
監事　長谷川芳春

顧問

上神圭二
榎本郁夫
梶田省三
久野木行美
関根貞夫
田林巖樹
牧康司
山鹿素雄
山本恵朗

参与

安藤隆夫
糸数冨美江
岩渕芳夫
芝山茂
鈴木俊二
店網俊夫
富川正
西納政光
橋本隆夫
日高三誠
三砂善之介
満田将太
鷲山俊男
渡部俊一

編集後記

平成から令和へと新しい時代へ移行する中で、マチュリティ109号は令和元年最初の発刊となりました。平成最後の4月30日にはこの時代を懐かしみ、惜しむ沢山の人がみられ、令和へのカウントダウンでは日本中が沸き立ちました。新たな時代に突入し、新天皇が即位され、全国でお祝いの行事が行われて希望に満ちたスタートとなりました。新しい時代の幕開けに誰もが期待感と夢を抱きました。

一方、その陰で忘れてはならない大きな事件、事故が多発しました。4月に都内で87歳の旧通産省の元幹部が車を暴走させ、31歳の母と3歳の娘の尊い命を奪いました。5月に入り、滋賀県で交差点を強引に右折しようとした車が直進車に衝突、その煽りを受け信号待ちしていた保育園児の2名が死亡、他の園児と保育士も重軽傷を負いました。下旬には神奈川県で通り魔がスクールバスを待つ児童ら20人を殺傷。更に6月には福岡県で81歳男性の運転する車が暴走し、4台を巻き込んで7人が負傷、本人と助手席の妻が亡くなるという、何ともおぞましい事件、事故が立て続けに起きたという事実は本当に残念でなりません。令和という字が表す通り、和やかで穏やかな時代であってほしいと願うばかりです。

さて、この機関誌マチュリティは創刊号が昭和59年発刊、平成元年には19号、そしてこの109号は令和元年の発行と、三時代にわたり読者の皆様に愛され発刊を続けることができました。これからも、従来の「介護」や「相続」といった固いテーマだけではなく、絵画や詩などの投稿を頂き、彩りに溢れた紙面作りに励んでいきますので、読者皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

（菊池正美）

MATURITY・第一〇九号
二〇一九年七月二〇日発行
発行人　湯藤哲
編集人　山田雅彦
発行所　公益社団法人 日本産業退職者協会
〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸51 第一スレートビル7階
電話　〇三（六二四〇）九三八一
ファックス　〇三（六二四〇）九三八二
ホームページ　http://jarp.or.jp/
※無断転載を禁ず

法人・団体　会員名簿

（令和元年７月20日現在）

株式会社イトーヨーカ堂
片倉工業株式会社
株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント
五洋建設株式会社
ＪＦＥスチール株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
大和証券株式会社
宝酒造株式会社
株式会社千葉興業銀行
株式会社千代田セレモニー
東京海上日動火災保険株式会社
東京建物株式会社
トーア再保険株式会社
トキワ印刷株式会社
西松建設株式会社
日本カーボン株式会社
ヒューリック株式会社
芙蓉総合リース株式会社
プラスエンジニアリング株式会社
文唱堂印刷株式会社
株式会社ベネフィット・ワン
丸大食品株式会社
丸紅株式会社
みずほ信託銀行株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社ミツウロコグループホールディングス
安田不動産株式会社
株式会社リサ・パートナーズ

（五〇音順）

会員の作品から

東京よさこい▶
細田　將孜
毎年８月下旬に原宿表参道などで開催され、全国から100余りの連が熱演を広げます。

▲鯉のぼり
清水　賢二（広島）
ひろしまフラワーフェスティバルでの原爆ドーム前の元安川をスタンドアップパドルボードの水上パレードです。

▲氷川参道
関根　貞夫
武蔵一宮氷川神社参道は「日本一の参道」として知られる。一の鳥居～三の鳥居まで、十八丁（約２㎞）の並木道。私の散歩道です。

◀中原のしだれ桜
紙田一宏（広島支部）
咲き誇る枝垂れ桜と空のコントラストが綺麗だったので、HDR ペインティングで撮ってみました。